

令和5年度  
教育委員会の事務の点検・評価報告書  
(令和4年度事業分)

令和5年9月

始良市教育委員会

# 目 次

I	教育委員会の点検・評価制度の概要等	1
II	教育委員会事務局の点検・評価	4
	教育委員会事務局	
1	教育総務課	4
2	学校教育課	9
3	社会教育課	20
4	図書館事務局	30
5	保健体育課	34
6	国体推進課	39
III	教育委員の点検・評価・意見・要望等	45
IV	外部評価委員の点検・評価・意見・要望等	59
	<b>【資料】</b>	
	外部評価委員・教育委員 名簿	78
	始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則	79
	始良市教育委員会外部評価委員会規程	80

# I 教育委員会の点検・評価制度の概要等

## 1 制度の概要について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部改正により、平成 20 年度からすべての教育委員会が、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を行うこととなり、その実施に当たっては、学識経験者の知見を活用することが規定されています。また、その結果については議会へ報告し、市民に対しても公表することが規定されています。（以下「条文抜粋参照」）

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 始良市教育委員会の点検・評価の実施方針について

始良市教育委員会において、前年度に実施した事務事業の内容について、『始良市の教育』（教育行政要覧）の各課重点施策を基本に、評価項目を分類します。

そして、事務事業自己点検・評価シートを作成し、教育委員会事務局内部で評価を実施した後、各教育委員の点検・評価を受け、その後、教育に関する学識経験を有する 5 名で組織する外部評価委員会を 2 回開催し、点検・評価を実施した後、報告書としてとりまとめます。

報告書は、9 月定例教育委員会での議決を経て市議会へ提出した後、10 月以降を目途に始良市のホームページを活用して市民に公表します。

### 3 自己点検及び評価における観点

#### (1) 教育委員会

教育委員会は、その社会的責任を果たすため、『始良市の教育』に掲げた重点施策に基づく教育活動等の状況について、教育水準の向上や活性化の成果と課題を自己点検し、その結果を踏まえ、優れていた点や改善を要する点などを明らかにするために評価を行います。

#### (2) 教育委員

教育委員は、教育行政の基本方針や重要事項を審議し決定した重点施策に基づいた教育活動等の状況について、教育水準の向上や活性化の成果と課題を自ら評価します。

#### (3) 外部評価委員

外部評価委員は、教育委員会の教育活動等の状況及び教育委員会の自己点検と評価の結果に関し、第三者の有識者として、その客観性及び妥当性を担保するとともに、教育活動全般の質の更なる改善・改革に資する考察や実質的な助言を付して総括的に評価します。

### 4 評価点数結果及び各課の評価項目件数

49 評価項目の合計評価点数は平均 4.3 点、始良市教育振興基本計画に基づく取組の着実な実施と、子育て基本条例に基づく社会全体の協働による子育て・人づくりのための具体的施策を展開した。評価項目は、教育総務課 4 項目・学校教育課 13 項目・社会教育課 14 項目・図書館事務局 4 項目・保健体育課 7 項目・国体推進課 7 項目の合計 49 項目である。

### 5 評価点数について

評価点数は 5 段階評価とし、基準等は下表のとおりとした。

評価	評価の基準等	達成割合の目安
5	目標を十分に達成し、期待以上の成果が得られた。	8割 ～ 10割
4	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	6割 ～ 8割
3	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	4割 ～ 6割
2	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	2割 ～ 4割
1	目標をほとんど達成できず、成果がなかった。	0割 ～ 2割

## 6 令和4年度事業の自己点検評価報告書作成スケジュール

日 程	内 容
5月9日 (火)	各課の自己点検評価の実施・評価シートの作成依頼
6月9日 (金)	教育委員による評価の依頼
6月9日 (金)	外部評価委員委嘱の承認(定例教育委員会)
7月10日 (月)	第1回 外部評価委員会 〔制度・趣旨説明・教育委員会自己評価の説明〕
7月10日 (月)	外部評価委員による評価の依頼
8月24日 (木)	第2回 外部評価委員会 〔事務の点検・評価報告書のとりまとめ〕
9月13日 (水)	点検・評価結果報告書の議案議決(定例教育委員会)
9月下旬	『点検・評価結果報告書』の市議会への提出
10月下旬	『点検・評価結果報告書』の市民への公表(市ホームページに掲載)

## Ⅱ 教育委員会事務局の点検・評価

### 1 教育総務課の成果と課題

#### 1. 教育委員会の活性化の推進

##### 【成果】

教育委員会の活性化の推進については、①定例教育委員会は、「始良市教育委員会の行政組織等に関する規則」の定める毎月10日前後に開催し、概ね全委員の出席のもと、本市の教育行政における重要事項や基本方針などを審議した。活発な質問や意見等が出され、相互の理解を深める中で議決・承認された事項に基づいた具体的な事務や生涯学習、学校教育、文化振興及びスポーツ振興等の幅広い施策の展開につなげることができた。

また、臨時会（3月）では、教職員の人事異動（内申）を諮り、本市の健やかな学びとより高い教育水準を支える人材の確保と環境を整えることができた。

〔予算議案6件、条例・規則等制定・改廃案件7件、附属機関の委員等の委嘱等人事案件8件、その他8件、計29件の議案及び報告14件〕

②総合教育会議（12月開催）では、「学校給食の課題と当面の取組について」及び「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」をテーマに、市長と教育委員会が教育のあるべき姿と本市の課題を共有し、連携強化を図ることができた。

③教育委員研修を通じて、教育行政の基本方針や重要事項を審議・決定するための識見や知見を更に深め、広げることができた。

〔鹿児島県・連絡協議会等主催の研修〕

県市町村教育委員会委員研修会（市町村自治会館：7月）

県市町村教育委員会連絡協議会（センテラスホール：10月）

地区教育委員会連絡協議会研修（県学校教育課長講演会：11月）

〔始良市主催の研修〕

九州内研修（市町村教育委員会連絡協議会研修会／長崎県：10/31、11/1）

教育部主催の研修（学校教育課：特別支援教育の推進について）

④教育委員活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一部予定どおり開催できない行事はあったものの、積極的に各種行事に参加した。全ての幼稚園、小・中学校の学校訪問を実施し、各園・学校のグランドデザイン（個別の方針や構想）を基にした経営方針の説明を受けるとともに、

学力・体力の状況や抱える課題等の実情を把握できたことにより、画一的な教育行政にとどまらず、柔軟で多様性のある教育振興につなげることができた。さらに、1人1台タブレットを活用した新しい時代に向けた学習・授業の様子や、特別な支援を必要とする児童生徒が増加している状況を改めて実感することができた。

【課題】

④ ウイズコロナ、アフターコロナにおいても、多彩な研修などを実施できるよう検討する余地がある。

**外部評価委員の評価点 平均4.8点**

**2. 適正な人事管理業務の推進**

【成果】

①質の高い教育行政を支える人材育成を目指し、職務上必要となる知識や技術を習得するための各種研修を実施し、教育行政に従事する職員の資質を向上させることができた。

(1) 県自治研修センターの役職別研修

新規採用職員研修1名、主査研修0名、新任係長研修1名、  
新任課長補佐研修0名、再任用職員研修1名  
一般職員研修2名、新任課長研修1名

(2) 市職員研修

新規採用職員集中研修1名、法制執務研修0名

②職種別の研修会を開催し、学校での業務が円滑に進むよう企画・実施した。

- ・事務局職員研修会(行政職員として心すべき事項：4月)
- ・学校司書補研修会(ナノシステム操作・図書館運営について：7月)
- ・用務員研修会(花の育て方の基本について：8月)

③各種の健康診断等を通じた職員の健康保持に努めた。

- ・職場健康診断受診者：正規職員43名、会計年度任用職員104名
- ・人間ドック：市町村共済25名、学校共済5名
- ・生活習慣病予防健診(社保適用者)：14名
- ・教育長・部長が新型コロナウイルス感染症対策本部会議等に毎回出席し、感染状況の把握、職員への情報を伝達

④始良市職員安全衛生管理規程に基づき、安全衛生委員会を2回開催（うち1回は書面開催）、労働安全衛生法の規定に基づくストレスチェックを実施し、職員の安全の確保及び健康の保持増進を図ることができた。

⑤職員の業績評価書の作成および期首面談（4月）、期末面談（2月）、評価遂行したことにより、組織全体の生産性を向上させることができた。また、会計年度任用職員270名の継続雇用にあたり、担当課で面談を実施し、現状の確認等を行い、次年度の職員の適正な配置につなげた。

#### 【課題】

職員の資質をさらに高めるため、外部研修（マナー研修、修繕、植栽、清掃、救命、防犯、防火などの管理業務など）や職員個々の理解度に応じた研修、さまざまな視点・知識・経験知を共有する場となり得る研修会などを調査・研究をする一環として、職員にアンケートや面談などを通じて、どのような研修が必要とされているのかを把握し、更なる充実に努めたい。

### 外部評価委員の評価点 平均4.4点

## 3. 適正な財務事務の推進

#### 【成果】

適正な財務事務の推進については、厳しい財政状況にありながらも、限られた予算でできる限り多くの事業を実施できるよう、財務事務の効率的な運営・適正な予算の編成及び適切な執行をもって、円滑な教育行政を支えることができた。

また、学校事務職員研修会を4回実施し、主に予算執行に関して共通理解を図る機会を持った。また、転入学校事務職員を対象に財務会計処理、備品システムについての実務研修を実施し、始良市の財務事務の理解度を高めることができた。

令和3年度決算監査、4年度定期監査では、指摘事項はなく、適正な予算執行が図られているとした評価を得ることができた。

学校備品監査では、小学校5校、中学校2校が実地調査校であり、特に指摘はなかった。また、学校要望を受け、監査事務局と協議の末、一部の監査資料の様式変更を行い、事務改善を図ることができた。

#### 【課題】

学校の高額備品の購入が容易にはできない財政状況にあるため、年次的に更新あるいは購入できるよう、例えば、『高額備品の購入・更新計画書』を整備し、年次的な購入更新を進められるよう検討する事項として考えている。

### 外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

#### 4. 良好な教育環境整備の推進

##### 【成果】

今後の学校施設整備の進め方を検討するため、「学校教育施設整備等検討委員会」を設置し、委員会を2回開催した。主には、バリアフリー化整備計画の策定について協議し、計画を策定した。

また、学校施設及び関連施設の維持管理により、健やかに学習できる施設環境と衛生環境の維持・向上に努めた。また、教職員の業務効率化を図るための執務環境を整備することができた。

教職員住宅については、土地開発公社から取得した土地に西浦小学校教頭住宅を新築し、また、北山診療所の医師住宅を令和5年度から北山小学校校長住宅として利用できるよう整備し、特別認定校地域の教職員住宅の整備に努めた。また、老朽化した山田中学校教頭住宅の解体工事を行った。

校舎等の新築・建替えについては、生徒数の増加が見込まれる重富小学校にプレハブ校舎を新築し、令和5年度以降の学級増に備えた。

校舎等の改修については、三船小学校体育館屋根防水工事と錦江小学校及び帖佐中学校の外壁改修工事等を行い、建物の維持に努めた。また、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、小中学校のトイレ手洗い場を自動水栓化(22校 760か所)し、手洗い場のレバーハンドル化(22校 1,839か所)、トイレの洋式化 64.1%(20校 84か所)まで進めた。さらに、三船小学校・蒲生小学校・蒲生中学校に手洗い場を新增設し、衛生的な環境整備を行った。

校地等の安全対策については、竜門小学校のイチヨウの木の伐採をはじめ、各学校の樹木を安全に保つための作業を行った。

学校ICT整備については、令和5年度教員増に対応するため、教職員用の校務用パソコンを追加整備した。また、学校のインターネット環境の向上のため共用パソコンの追加整備を行った。

#### 【課題】

学校施設については、老朽化の状態に応じて優先順位を考慮しながら、計

画的な改修、新築、改築等を進める方針である。また、児童・生徒および特別支援の児童・生徒の増加に伴い、新しい校舎や教室を確保するために、増築等を検討したいと考えている。さらに、老朽化したプールのトイレや機能低下した校（園）庭を計画的に改修し、焼却炉の解体撤去も進める予定である。学校の ICT 環境についても、デジタル社会に適した教育環境を段階的に整備し、最適な状態にすることを検討している。

**外部評価委員の評価点 平均 4.8 点**

## 2 学校教育課の成果と課題

### 1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進

『豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実』

#### 【成果】

豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実については、①「学級経営研修会」及び「道德教育推進教師研修会」を開催し、学校における道德教育の基盤作りに努めた。また、道德科指導法開発委員会で作成したタブレットを使った道德科授業実践事例集を各学校に配布するとともに、ワークシートをタブレット上で共有できるようにしたことにより、学校におけるタブレットを活用した道德科の授業実践を促すことができた。

②モラリティ・インクルーブメント実践推進校の西浦小・加治木中が実践発表を行ったことにより、学校・家庭・地域の三者協働による道德教育推進のモデルを市内の学校・家庭・地域へ示すことができた。また、加治木中では意見交換会に中学生や高校生が参加したことにより、子どもたちの思いや保護者・地域の思いを互いに共有することができた。

③学校・家庭・地域が、協働して子どもの道德性を育むためにどのような取組が必要かを考えるモラリティ・インクルーブメント・ミーティングにより、子どもの道德性を育むための具体的取組を推進することができた。その一例として、「みんなのカレンダー」を作成して、各家庭に配布し、「あいさつ、ルール・マナー、感謝の心、ふるさと」について子どもたちに啓発することができた。

④子どもの豊かな情操を育むための小・中・高生による弁論大会「ことばのいずみコンクール」及び始良市の歴史に詳しい東川隆太郎講師により郷土を知り、郷土に誇りをもつことの大切さをテーマとした講演会を行ったところ、360人の来場があり、学校・家庭・地域の三者協働による道德教育について啓発することができた。

#### 【課題】

①本事業の重点項目や取組内容を、道德教育推進教師だけでなく全職員に浸透させていくための方策について検討の余地がある。

②実践発表会への参加者を、更に増やせるような取組を検討事項として考えています。

③モラリティ・インクルーブメント・ミーティングでの提言を保護者や地域に周知し道德性が向上するような取組については、改善の余地がある。

④弁論大会への応募者（特に中高生）と、弁論大会及び講演会の参加者を引き続き増やすために検討を重ねながら、解決策を見出していきたい。

**外部評価委員の評価点 平均 5.0 点**

## 『児童生徒の心に届く生徒指導の充実』

### 【成果】

児童生徒の心に届く生徒指導の充実については、①市独自にスクールカウンセラーを3人配置したことで、児童生徒や、その保護者、教諭等の相談体制の充実につながった。

②2人のスクールソーシャルワーカーが、児童生徒が抱える課題や家庭状況の環境改善に向け、学校、関係福祉部局、警察等との連絡・調整を行ったことで、児童生徒の学校・家庭生活の改善につながる事例が見られた。

③適応指導教室への通室児童生徒数は始良教室で45人（1日平均13～20人程度）、加治木教室で6人となっている。指導員による継続した指導を講じることで、通室していた中3生徒の全員が高等学校入学を果たした。

④事件や事故など、児童生徒やその保護者に対して緊急を要する場合の心理的カウンセリングを行ったことで、児童生徒一人一人に対応した支援につながった。

### 【課題】

①小学校におけるカウンセリングのニーズが高まっており、今後スクールカウンセラーの配置回数、配置場所については検討していく予定である。

②児童生徒が抱える課題や家庭状況の環境改善により細やかな対応を図るため、スクールソーシャルワーカーの効果的な活用について検討する。

③児童生徒の再登校を促すために、学校との連携を更に深める。

④スクランブルカウンセリング後の、児童生徒への継続的な支援のあり方について、検討する。

## 外部評価委員の評価点 平均4.4点

## 『人権教育及び体験活動や読書活動の充実』

### 【成果】

人権教育及び体験活動や読書活動の充実については、①各学校の人権教育の全体計画及び年間指導計画について把握し、指導を行ったことにより、学校における人権教育の充実を図ることができた。

②管理職研修会で各学校での人権教育の重要性を説明し、校内研修の充実についての指導を行った。また、県及び地区で開催される人権教育に係る研修について各学校に周知し、教職員の参加を計画的に進めることができた。さらに、県の人権教育総合推進地域事業の指定を受けた山田中ブロックでは、人権問題啓発の講演会や人権教育総合推進会議を実施し、児童

生徒や教職員、保護者、地域の人権教育の推進を図ってきた。

③各学校において感染症予防対策を十分に講じたり、活動内容や場所、時間等を工夫したりすることで、コロナ禍でも充実した宿泊学習を実施することができた。

④市図画作品審査会については、3年ぶりに規模を縮小した形ではあるが開催することができた。理科作品審査会についても各学校から優れた作品が多く出され、14点の作品を鹿児島県理科作品展に上げることができた。

⑤小・中合同音楽会について、市音楽部会と連携を図り、加音ホールと始良公民館に会場を分散させて行ったことで、新型コロナウイルス感染を予防しながら児童生徒が練習した演奏や合唱などを発表する機会を確保でき、市内小中学生の音楽を通じた交流を図ることができた。

#### 【課題】

①各学校の実態に応じた人権教育の全体計画及び年間指導計画の改善が図られているかを、今後も見届けていく。

②より多くの職員が人権教育に関する各種校外研修会に参加できるように、今後も実施計画を早めに周知するとともに、職員の計画的な参加を促す。

③今後も感染状況等を踏まえて実施方法の検討をする。

④図画作品の製作時間を確保し、完成度を更に高めるために、開催日については検討事項として考えている。

⑤小・中合同音楽会の目的達成に向けて、2分割会場の是非について検討する。

### 外部評価委員の評価点 平均4.0点

#### 『幼児教育の充実』

##### 【成果】

幼児教育の充実については、①共通理解事項、各園の運営等について協議する場を設定することで、4園ともに見通しをもって園の運営を行うことができた。

②架け橋プログラムについて研修を行ったことで、幼保小のスムーズな接続に向けた意識が高まり、目指すべき子供の姿を確認することができた。

③園児の主体的な活動に焦点を当てて協議することで、意義のある保育参観・保育研究を実施することができた。また、始良・伊佐地区の公立幼稚園教諭間で園の教育活動等について情報交換を行うことができた。

④各小学校区ごとの幼・小交流学习の計画を確認することで、感染予防

対策を講じながら効果的な交流学习が実施できるよう指導することができた。

**【課題】**

①より魅力的な幼稚園経営を行い、公立幼稚園の意義を感じてもらいながら園児確保に向けた具体的な取組を模索していきたい。

②各小学校区の研修内容について共有する場を設定し、市全体の幼・保・小連携を更に深めていくことを検討している。

③分科会でのグループ討議をより活発化させるための工夫について検討を重ね、より充実した分科会になるようにしたい。

④幼・小交流学习をはじめ、幼保交流を推進させていく予定である。

**外部評価委員の評価点 平均 4.0 点**

**2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進**

『確かな学力の定着』

**【成果】**

「確かな学力」の定着については、①-1 各中学校ブロックごとに、小中連携して学びを支える基本的な学習・生活習慣の定着に取り組んだことで、学力が向上した。

①-1 各学校が、生活・学習等における基本的なきまりをA3用紙1枚にまとめた「小中共通学校生活のきまり」を作成したことで、教師・児童生徒・保護者が、一目でルールの共通理解ができるようになった。

①-2 学習指導要領の求める授業づくりについて実践的に学べる研修を行ったことで、参加者は、今後の授業づくりに生かそうという意欲を高めた。

②教育フォーラムでは高橋聡美氏を講師として招聘し、市内全教職員対象に子供の自殺予防に関する教育講演会を実施することで、SOS の出し方・受け止め方についての理解が深まった。

③教務主任等研修会を実施し、教務主任としての教育課程の編成と学力向上の取組への関わり方についての研修を行うことで、学力向上委員会等の位置付け等を確認でき、校内研修等の充実につながった。

④市内 8 校（地区指定校 4 校含む）が、研究指定を受けて研究に取り組むことで、研究内容が充実し、授業力の向上が見られた。

⑤⑦全国学力・学習状況調査、標準学力検査では、これまでの成果を可視化するとともに、演習問題等を活用した授業改善を推進したことで、小

学校・中学校共に、市平均は、全国・県平均を大きく上回った。

⑥鹿児島学習定着度調査では、これまでの成果を可視化するとともに、演習問題等を活用した授業改善を推進したことで、小学校の市平均は、全教科において県平均を大きく上回った。

#### 【課題】

①-1 各中学校ブロックごとに小中連携の研修会を開いてきたが、中1の定着度調査結果については、さらなる授業改善を通して改善の余地がある。

①-2 指導力向上セミナーの実施時期を変更し参加者を増やす工夫を行ったが、中学校の参加者のさらなる増加に向けて、適切な対策を見つけない。

②講演で学んだことが各学校での実践に生かされているかを見届けていく予定である。

③教務主任等研修会では、引き続き教務主任の組織における役割についての研修を深めていく。

④研究指定校へ重点的に指導主事を派遣し指導を行ってきたが、研究を深めるために継続して取り組む。

⑥鹿児島学習定着度調査において、中学校は、県平均を上回ったのは、中1の国語と英語のみであったことから、中学校の学力については、演習問題等を活用するなどして授業の改善をさらに進める。

### 外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

#### 『理数・外国語教育の充実』

##### 【成果】

理数・外国語教育の充実については、①理数・外国語教育推進事業として、理数分野、外国語分野それぞれ計画に沿った取組が展開され、各種学力調査等で成果が現れた。

②小学校2校（帖佐小、西始良小）に理数定着支援員を配置したことで、学校や学級、児童の実態に応じた指導を重点的に行うことができた。

③算数・数学指導法研修会を実施し、思考力・判断力・表現力を育成するための授業について研修を深めることができた。

④サイエンスリーダー養成講座において、年4回の講座を計画通り実施したことで、受講生が主体的・協働的に活動する姿が見られ、受講の修了後には、科学への興味・関心が高まったり、自分に自信が付いたりしたことや他校の生徒と協働した達成感等の感想が見られた。

⑤外国語科SET加配教諭を配置した柁城小と竜門小以外の市内の全て

の小学校に英語活動協力員（A E A）を派遣したことで、小学校外国語及び外国語活動の指導の充実につながった。

⑥小学校外国語活動及び中学校英語科の授業を参観し、協議の機会を設定したことで、他校での取組についての理解が深まった。

⑦⑧外国語教育推進事業の実践校（重富中・始良小）における研究授業と研究協議を通じて、小中学校の授業力の向上につながった。また、外国語教育アドバイザーである影浦攻氏（鹿児島純心女子大学前副学長）と宮崎大学講師の興津紀子氏の講話を行ったことにより、小学校外国語科の指導力向上につながった。

#### 【課題】

①理数・外国語教育推進事業により、引き続き理数・外国語の学力の定着を図っていききたい。

②理数定着支援員を2人配置しているが、授業場面における支援員の効果的な活用の在り方について更に改善していく余地がある。

③算数・数学科指導法研修会について、各学校において思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善が推進されるように、研修内容については、検討を進め、適切な対策を見つけたいと考える。

④理科実験法研修会では、研修が実践につながるよう、実験器具等を使って実験の仕方や方法等について検討する内容で研修を行ったが、参加人数が目標に達しなかった。内容について検討を重ねながら、参加人数増加の解決策を見いだしていきたい。

⑤A E Aと小学校担任による効果的なT Tの指導方法について継続して研修を深めていききたいと考えている。

⑥⑦⑧教職員のニーズに応えられるように講演の内容を吟味し、講師の選定を行うとともに、提供する内容の質を更に向上させたい。

### 外部評価委員の評価点 平均4.8点

#### 『特別支援教育や情報教育の充実の推進』

##### 【成果】

特別支援教育や情報教育の充実の推進については、①本市で取り組んでいる「得意なこと、苦手なことシート」について、ロールプレイを取り入れた研修を行った。アンケートを基に児童生徒と個別面談を行う際のポイントを押えながら、具体的な支援策を検討したことで、2学期以降の個別面談に活かすことができた。

②③市内小中学校に58人の特別支援教育支援員を配置し、通常学級にお

ける特別な支援を必要とする児童生徒の支援を細やかに行うことができた。支援員研修会では、仮想の授業 VTR を見て、支援の必要な場面や方法に関するグループワークを行い、2学期以降の支援の質の向上につながった。

④適正な就学を図るために、教育支援委員会を年に4回実施した。医療や福祉、教育、保健等の専門的な立場から意見交換を行うことで、幼児、児童生徒の適切な就学先について根拠をもって判断することができた。

⑤年に2回実施した。「得意なこと、苦手なことシート」の取組について、各委員から意見をもらうことで、改善点や活用方法等について貴重な示唆を得ることができた。

⑥就学相談・支援の一環として中学校ブロックごとに就学に関する説明会を開催し、120人弱の参加があった。その効果もあり、就学相談会の申込みが前年度より50人弱の増加となった。

⑦1人1台タブレット端末を活用した授業づくりが「まず使ってみる」という段階から「効果的な活用」へと改善されてきている。

#### 【課題】

①児童生徒の実態を踏まえた支援の在り方について、今後も研修を進めていきたいと考えている。

②支援員配置について、年度途中の突発的な事案にも柔軟に対応できるようにしていく予定である。

④就学相談会の参加者が増加しているため、教育支援委員会で審議する時間の確保については検討事項として考えている。

⑤学校と関係機関の連携を図っていく上で、人的、物的、時間的な面を考慮し、段階的に解決策を見出していきたい。

⑥就学相談会の参加者が増えることで、対応できる専門員の確保が難しくなりつつあるため、特別支援学校の教員以外の専門員も視野に検討を進めていく予定である。

⑦各学校一人一台端末の整備がなされ、通常の学級においては徐々に活用が進んでいるが、特別支援教育の視点で個別最適化された活用はあまり進んでいないのが現状である。今後は、端末を活用した授業実践を積み重ね、活用を推進させていく予定である。

### 外部評価委員の評価点 平均4.0点

#### 『進路指導・キャリア教育の充実』

##### 【成果】

進路指導・キャリア教育の充実については、①コロナ禍にもかかわらず、

小中学生のキャリア教育に賛同し協力いただける事業所が多くあり、職場体験学習や職場見学のための「あいらキャリアサポートバンク(175事業所、前年比±0)」を維持することができた。

②市内の事業所からキャリア教育推進委員を選定し、事業者や子育て支援の立場から考える児童生徒の職業観・勤労観について協議を深めたことで、「自立」に向けて育成したい資質や能力を学校や地域でどのように伸ばすかについて貴重な意見をいただくことができた。

③新型コロナウイルス感染症拡大のため、中学校での職場体験学習は実施できない学校があった。代替として地域の方や事業所の方を講師に招いた職業講話などが実施されたことで、生徒の職業観や将来の生き方について考える機会を得ることができた。

#### 【課題】

①②始良市が掲げる「自立」に向けて、将来の社会的な自立につながるようにキャリア教育推進協議会の内容の充実を図り、各学校に還元していきたい。

③令和5年度は、中学校における職場体験学習の受け入れが可能になりつつあり、更なる充実につなげていきたいと考えている。

### 外部評価委員の評価点 平均4.0点

### 3. 児童生徒や保護者、地域に信頼される学校づくり

#### 『体験活動や郷土教育の充実』

#### 【成果】

体験活動や郷土教育の充実については、①総合的な学習の時間の充実のために、地域の特色を生かした体験活動を取り入れることで、児童生徒は、ふるさとのよさを再認識することができた。

②学校の実態に応じて郷土にある身近な素材を調べる活動を行うことで、児童生徒は新たな発見をして自分自身の考えを発信する等、発展的な学習を進めることができた。

#### 【課題】

①継続して体験活動を支援していく予定である。

②社会教育課(文化財係)等とより連携を図り、郷土教材や人材等を活用するなどの改善の余地がある。

### 外部評価委員の評価点 平均3.8点

## 『魅力ある学校づくりの推進』

### 【成果】

魅力ある学校づくりの推進については、①学校経営総合計画（グランドデザイン）に基づく計画的・総合的な経営推進について、学校訪問や管理職研修会、自己申告の場で指導及び評価を行うことで、各学校において経営改善が促進され、経営の充実が図られた。

②学校評議員会及び学校関係者評価委員会における委員の学校に対する評価や意見等を踏まえて、教育活動の改善につなげることができた。

### 【課題】

①校長の自己申告等の機会に経営状況に係る資料準備や聞き取りを行っているが、今後も面談の内容等を充実するために数値等による取組状況の把握に努めていきたいと考えている。

②コロナ感染拡大防止対策として、書面での学校評議員会及び学校関係者評価委員会開催となった学校があった。学校の取組や学校評議員の学校に対する評価や意見等を共有する大切な機会であるので開催方法については対面方式での開催を進めていく予定である。

## 外部評価委員の評価点 平均 4.6 点

## 『学校運営の充実及び教職員の資質向上』

### 【成果】

学校運営の充実及び教職員の資質向上については、①年間計画に基づいて、校長・教頭研修会を実施し、市教育行政の説明、当面する課題に応じた講話、協議、演習などを行ったことで、管理職としての職責感や学校経営への意欲を高めることができた。

②教育事務所との合同訪問を含め、全幼稚園、小・中学校の学校訪問を計画的に実施し、学校施設や児童生徒の様子、職員の動きを授業参観や表簿等閲覧を通して点検を行ったことで、学校経営の課題を伝え、経営状況の改善を促すことができた。

③「指導力向上セミナー」を計2回実施し、市内小・中学校教員を対象に実践的な研修を深めたことで、学習指導要領の求める授業の在り方について学び、授業改善につながった。

### 【課題】

①今後も、教育委員会各課と連携し、管理職研修会の指導内容や指導方法等について検討していく予定である。

②学校訪問において指導主事等が参観した全ての授業者について、訪問後に管理職用評価シートを提供している。シートの活用等による授業改善を更に進めるために、訪問時の評価状況を学校ごとや校種ごと一覧表にまとめたので、管理職にその活用を促していく予定である。

③「指導力向上セミナー」の内容については、参加者の実態やニーズの把握に努めることで、充実を図っていく。

## 外部評価委員の評価点 平均4.2点

### 『小規模校・複式教育の充実』

#### 【成果】

小規模校・複式教育の充実については、①小規模校・複式学習指導法研修会では、研究授業を通じた授業研究、テーマに沿った協議など、実践的で充実した研修が行われた。

②特認校受入までの流れを可視化し、特認校と教育委員会で共通理解を図ることができた。また、特認校を希望する園児や児童の情報を収集し学校に伝えるなど、情報提供を行うことができた。

③小規模校のよさを生かし、特色ある教育活動を推進しながら、集合学習などを教育課程に位置付けることで、より充実した取組を推進することができた。

#### 【課題】

①③日常的な連携や情報交換をできるようにするなど、さらなる工夫の余地がある。

②学校によって特認校制度を使って通学する児童の人数に偏りが見られる。

## 外部評価委員の評価点 平均4.2点

### 『教職員の業務改善』

#### 【成果】

教職員の業務改善については、①業務改善に係る学校としての取組（1アクション）及び教職員個々の取組（1トライ）が進んでおり、（通常の勤

務時間を超えた) 在校等時間が目標としている 45 時間以内になるよう意識しながら校務に取り組む職員の割合が増えてきた。

②教育委員会事務局職員で、月毎に市内全教職員の出退勤時刻に係る記録状況を一覧表にし確認するとともに、その状況を毎月の管理職研修会で改善事例と共に紹介したことで、業務改善を意識した学校運営が推進された。

③教職員用の校務支援システム（成績管理、教材の共有化、教職員間の連絡ツール等）を市内全校に導入したことで、教職員が操作方法を習得した下半期（10 月～3 月）において在校等時間の減少が見られた。

#### 【課題】

①各主任等を中心とした学校組織の機能化・活性化を更に図っていきたいと考える。

②出退勤時刻の記録を活用し、改善が図られない職員についてはその理由を確認するとともに、管理職等が指導したり、改善を促す情報提供に努めたりすることを考えている。

③大規模校等において、教頭の在校等時間に改善が図られていない状況があるため、教頭等の負担を軽減する支援員の配置等を検討する必要がある。

**外部評価委員の評価点 平均 3.8 点**

### 3 社会教育課の成果と課題

#### 〔社会教育係〕

#### 1. 社会教育の基盤づくり

『関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上』

##### 【成果】

『関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上』については、①委員数 15 人、年 2 回開催。研究テーマ「みんなで支える家庭教育支援の在り方～「ひと」「もの」「こと」からのアプローチ～」を設定し、委員から本市での家庭教育支援に対して多角的な視点から意見をいただき、本市の家庭教育支援に関する各事業に反映させた。

〈提言を受けて実施した内容〉

- ・子育てサポーターと SC・SSW との研修会の実施
- ・家庭教育フェスティバルにおける乳幼児の保護者を対象にした体験ブースの設置

②県・地区で開催された研修会等、関係職員が参加するよう促した（県：12 研修会、地区：11 研修会）。施設職員の資質向上を図るため、先進施設視察を実施した。

##### 【課題】

- ①より多角的な意見を聴取するための委員の選出

#### 外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化』

##### 【成果】

『社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化』については、①市単独、地区合同で各種研修会を実施した。県、地区、市開催の研修会については、各団体へ案内を配布し、参加者の確保に努めた。

〈研修会参加者 県：27 人 地区：105 人〉

②市子ども会育成連絡協議会、市 P T A 連絡協議会、市校外生活指導連絡会、市女性団体連絡会、市生活学校連絡会、市文化協会等、社会教育関係団体に対して、補助金交付や、活動について指導助言を行うなど、育成支援を行った。加入率の減少がみられる団体については、担当職員を県内先進市に派遣し、取組事例を具体的に提案した。

③市報やホームページ、地域防災メールを活用し、時期を逸することなく随時広報を行うことができた。

【課題】

- ①次世代のリーダーの発掘や育成について、県や地区とも連携を図りながら解決策を見出していきたい。
- ②組織加入者が減少している団体への支援については、今後の検討事項として考えています。

**外部評価委員の評価点 平均 3.8 点**

**2. 青少年教育の充実**

『生きる力を備えた青少年の健全育成』

【成果】

青少年事業の実施では、①-7 『7千年の息吹を未来へつなぐ』～屋久島縄文杉登山と種子島宇宙センター～。コロナ禍のため、屋久島縄文杉登山を中心とした体験プログラムを実施。R3年度の内容を一部変更し、体験内容を充実させた。小学生8人、中学生6人、高校生2人の16人参加。縄文杉登山も全員踏破した。

①-イ 感染状況を受け、開催時期、日数を変更して実施。小学5年生～中学3年生の23人が参加し、学校や学年の異なる友達と集団宿泊生活をしながら通学する体験を通して、自主性・協調性・社会性を培った。

①-ウ 計6回の活動を実施。定員24人に対して41人の申込みがあった。計6回を通して、様々な職業体験、振り返りを重視した活動を実施することができた。

①-エ 計7回12講座を実施。定員470人に対して787人(実人数273人)と多くの申込みがあり、延べ443人が参加した。親も子も楽しく活動し、学校では学べない体験活動の場となった。

①-オ 成人年齢の引き下げを受けて名称を変更し、感染症対策を講じ、一部制にして実施した。対象者1,018人中563人参加。2年ぶりにオープニングアクト（蒲生郷太鼓坊主）の招聘、始良市在住の技能実習生の参加が実現し、盛大に式典を開催することができた。

SSVC+事業の実施では、②全小・中学校で年間計画を作成し、コーディネーターを主体に、多様な活動を実施。全中学校区ごとに統括コーディネーター、家庭教育サポーター、全小学校区にコーディネーター、計22人配置。

青少年団体との連携強化では、③ジュニアリーダークラブの活用（青少年育成事業3回、家庭教育支援事業1回、市子ども会2回、市P連研修会）

市民会議においては、青少年育成部会では講演や情報交換を実施した。家庭部会では、あいさつ運動標語を募集(6,917点)し、のぼり旗を作成し、あいさつ運動の啓発に努めた。環境部会では、オンラインゲーム等の利用に関する啓発チラシ作成及び配布を行った。

【課題】

- ②③児童生徒及び保護者の地域活動への参加促進

**外部評価委員の評価点 平均4.6点**

**3. 家庭教育・成人教育の充実**

『家庭教育の充実』

【成果】

①国・県指定「みんなで支える家庭教育推進事業」モデル事業として、推進委員会(年2回)・庁内連絡部会(年3回)の開催、ラジオ番組制作(年10回)、子育てサロン(9回97人参加)、家庭教育フェスティバル(229人参加)、ワークショップ(39人参加)を実施した。

②市立4幼稚園・17小学校・5中学校に委託し、開設。学級生2,194人。学級長研修会では、運営等に関する質疑の時間を設け、不安解消に努めた。コロナ禍での学習例を提案し、家庭教育ラジオの活用など工夫した学習を実施。家庭教育サポーターによる子育てサロンを9学級実施し、保護者の悩みの解消に努めた。

③保育園、幼稚園、小・中学校への配布に加え、市内公共施設への設置を行った。また、子育て手帳PR活動として、各種団体の総会や家庭教育学級での説明を行った。

【課題】

- ①子育てに係る多様な方々への学習機会の提供  
②家庭教育学級及び子育てサロンの実施拡大

**外部評価委員の評価点 平均4.8点**

『女性教育・高齢者教育の充実』・『人権教育の推進』

【成果】

①あやめ学級(2学級)、ゆずり葉学級(5学級)、蒲生成人学級(1学級)の計8学級を開設し、192人が受講した。市民の生きがいをづくりや仲間づくりとしての場としての役割を果たした。また、広く一般市民に学習の場を提供するための今後の方向付けをすることができた。

②家庭教育学級・女性学級等で34回の人権に関する学習を実施し、699人が参加した。

【課題】

①成人学級開設の周知、内容の充実

**外部評価委員の評価点 平均4.0点**

4. 社会教育施設の充実と利用促進

『社会教育施設の充実と利用促進』

【成果】

①北山野外研修センターの運営の充実と利用促進では、年間利用者数2,056人。学校行事や地域行事での活用が増えた。

②スターランドAIRAの運営の充実と利用促進では、年間入館者数3,944人、観望会：46回408人、工作教室(サンデークラフト)：12回210人、特別企画(GW、夏休み特別企画)5回124人、写真展：応募点数14点。

③椋鳩十文学記念館の運営の充実と利用促進では、年間入館者数2,164人(本館1,195人、自由の館969人)。庭園利用者数1,791人。活性化計画の一環として、夏季企画展「俳句と椋鳩十」、冬季企画展「校歌と椋鳩十」を開催。夏季企画展前には、中央図書館出張展示を行い、企画展中は児童を対象に俳句教室を開催し、23人が参加した。また、毎月23日は市立幼稚園・小学校、市内読書グループに依頼し、親子読み聞かせ会(8回)を実施。延べ193人が参加し、リピーターも見られた。

④蒲生ふるさと交流館の運営では、年間利用者数6,035人。地域の人材を活用する等、工夫された自主事業を展開した。

⑤龍門陶芸・健康の里〔陶夢ランド〕の運営では、年間利用者数30,330人。広報活動や自主事業(陶芸体験教室)を行い、施設の利用促進を図った。また、電源立地地域対策交付金を活用し、指定避難所及び物資集積拠点施設になっている当該施設の多目的ホールのLED化工事を実施し、防災力の向上を図り避難者に対して安心できる環境の整備を行った。

**【課題】**

- ①～⑤ 効果的な広報手段と施設の老朽化への対応

**外部評価委員の評価点 平均 4.2 点**

**〔生涯学習係〕**

**1. 生涯学習の推進**

『生涯学習推進体制の整備』

**【成果】**

①生涯学習推進会議では、企画委員会及び推進会議を年間各2回開催した。

②市生涯学習フェア(始良公民館(2/26))では、来場者623人 生涯学習功労賞表彰・表彰伝達、講演「脳を天才にする！勉強法必勝法バイブル」講師 吉田たかよし氏(心療内科医・医学博士)、活動事例発表、生涯学習展示、学習成果発表、市生涯学習事業展示等。当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い開催した。

③生涯学習情報として、講師・研修先一覧表 R5年3月改定、市内講師139名、市外講師84名を提供した。

**【課題】**

- ②生涯学習フェアの内容充実。  
③市民の多様なニーズに応じた指導者の発掘・情報提供。

**外部評価委員の評価点 平均 4.2 点**

**2. 芸術文化活動の振興**

『芸術文化鑑賞機会の提供による文化意識の高揚』

**【成果】**

①市町村による青少年劇場では、11/9 始良小(680人)11/15 加治木小(295人)「児童演劇：あした あさって しあさって、11/29 蒲生・漆・西浦小(380人)「児童演劇：やだ、やだ あっかんべー！」

小学校訪問演奏会では、10/26 三船・山田・北山小(330人)「みやまおとどけコンサート」、10/8 西始良小(160人)「サウンドビュー・アイラ」

②市立少年少女合唱団では、団員数小中高生 15 人、毎週土曜日練習、県少年少女合唱祭（7/25）、こころの花束コンサート（10/9）、市文化芸術祭（12/4）、始良・伊佐地区生涯学習推進大会（1/15）、椋鳩十文学記念館賞贈呈式（1/21）、定期演奏会（2/19）。

③第 21 回始良 10 号美術展では、1/13～1/29 加音ホール、286 人/345 点出品、大賞・優秀賞・生涯学習賞・特別賞・特選・高校生大賞・高校生特選計 42 点

④市文化芸術祭では、みやまおとどけコンサート、郷土芸能披露を企画し、多様性のある芸術祭を提供した。動員数は（12/4・974 人）。

令和 4 年度もすべての事業において、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したうえで、事業を行った。

#### 【課題】

①コロナ前のように学校周辺の地域の方々にも案内し、芸術鑑賞の機会が設けられないか検討を進めていく予定である。

②コロナ禍以降の団員数の減少

### 外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

### 3. 公民館施設の充実

#### 『施設環境の整備』

#### 【成果】

①市内各公民館において、施設の維持保全に必要な修繕等を適宜行うとともに、環境美化に努め、安全で利用しやすい環境を整えた。主なものとしては、始良公民館（高圧電気機器取替工事、トイレ洋式化工事）、帖佐地区公民館（浄化槽ばっ気ブローア修繕）、重富地区公民館（玄関ガラス修繕）、協元地区公民館（小会議室誘導灯修繕）、松原地区公民館（大会議室天井水漏れ修繕）、蒲生公民館（屋内消火栓設備・誘導灯設備修繕）などを行った。

#### 【課題】

①施設の老朽化や設備備品の更新等については、財政状況も踏まえ、検討を重ねて計画的に進めていく予定である。

### 外部評価委員の評価点 平均 3.8 点

#### 4. 公民館事業の充実

『関係機関との協力体制の強化』・『生涯学習講座の充実』・『公民館利用の拡充』

##### 【成果】

①公民館運営審議会：年2回開催

②年間講座：36、短期講座：15、親子講座：4、計55講座開設。受講者665名。講座開設にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、昨年度比で開設講座数が6増、受講者数が72名増加した。

③公民館施設利用者数 年間合計 225,782人

- ・始良公民館 : 141,711人
- ・山田地区公民館 : 2,856人
- ・帖佐地区公民館 : 13,585人
- ・松原地区公民館 : 37,659人
- ・脇元地区公民館 : 8,406人
- ・重富地区公民館 : 5,031人
- ・蒲生公民館 : 16,534人

##### 【課題】

②若年層（就労世代）の受講者数の増加に向けて、講座内容や開催時期・時間帯等について、検討を進めていく予定である。

### 外部評価委員の評価点 平均4.0点

#### 〔文化財係〕

##### 1. 指定文化財登録文化財の保存・活用

『文化財の管理・保存・整備』・『文化財の広報・活用・調査』

##### 【成果】

①年4回の審議会を開催し、新指定文化財候補について協議および現地調査を実施。

②指定史跡について、市シルバー人材センターへの委託、歴史ボランティアによる巡回・清掃、職員の定期清掃を組み合わせ、通年的に維持管理を図った。

蒲生のクスは国庫補助事業で、クス東側の土壌改良および樹冠上部の樹勢診断・枯枝切除を実施した。年3回の定期樹勢診断で樹勢回復を確認している。

蒲生のクス・森山家住宅はシロアリ防除を実施。

建昌城跡は、剪定枝のチップ敷設による防草化の試験施工を実施し、防

草効果を確認。

③市内神社 7 社の資料確認・写真撮影、25 社の石造物拓本調査を実施。

④指定文化財 9 件の解説板を新設・修繕。加治木ロータリークラブの協力により、加治木地区 12 件の解説板を修繕。案内標識 2 件を修繕。

⑤市報で「あいらひすとリー便」として毎月市内の鎌倉時代の史跡を紹介。また、文化財パンフレット・ガイドブックは適宜増刷し、周知広報に努めた。

⑥歴史民俗資料館で「ふるさと歴史講座」（参加者延べ 373 人）を開設。史跡めぐりは、5 月「歩き・み・ふれる歴史の道・龍門司坂と鎌倉時代の史跡めぐり」（参加者 36 人）、3 月「中世の帖佐を歩く」（参加者 31 人）を開催。また、松原なぎさ小の総合的な学習や蒲生中 3 年生の郷土学習（史跡めぐり）等で支援を行った。また、夏休みには「あいらしまづこども歴史探検」（参加者 33 人）、「まが玉づくり（ムーミン講座）」（参加者 129 人）を実施した。

#### 【課題】

④解説板・標柱・案内標識の計画的更新

⑤文化財情報のデジタル化及び情報発信

### 外部評価委員の評価点 平均 4.8 点

## 2. 埋蔵文化財の保存・活用

『埋蔵文化財の保護と開発事業との調整』

#### 【成果】

埋蔵文化財の保存・活用については、①令和元・2 年度に発掘調査した前田遺跡の出土品整理作業を実施した。縄文時代中期（約 4500 年前）の編みかご（大型）4 点の保存処理を行った。1 月に発掘調査報告書を刊行し、2 月に調査成果を報道発表した。

②開発行為に伴う確認調査 16 件（前年度比-2 件）を実施した。

③国史跡・宮田ヶ岡瓦窯跡の確認調査（保存目的）出土遺物の整理作業を実施した。

④包蔵地照会 322 件（前年度比+10 件）に対応した。

#### 【課題】

①前田遺跡調査成果の一般公開

### 外部評価委員の評価点 平均 4.5 点

### 3. 郷土芸能の保存・育成

『郷土芸能の振興』

#### 【成果】

郷土芸能の振興については、①加治木太鼓踊大会（8/16）、蒲生太鼓踊り公開（8/21）は、新型コロナウイルス感染症対策を図り規模を縮小して実施した（蒲生は雨天中止）。

②各団体が可能な範囲で披露・公開を実施した。蒲生大楠どんと秋祭り で川東太鼓踊り、市文化芸術祭で下名疱瘡踊りと北太鼓踊りが披露した。

③16 保存会に対し、後継者育成と保存会活動支援を目的に補助金を交付した。

#### 【課題】

①～③コロナ後の郷土芸能の保存・伝承

## 外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

### 4. 施設の充実

『歴史民俗資料館・加治木郷土館・吉原事務所の運営』

#### 【成果】

各資料館の年間入館者は〔歴民館〕2,012 人・〔郷土館〕1,410 人であった。

①歴史民俗資料館・加治木郷土館運営協議会の開催では、年 2 回運営協議会を開催し、両館の運営について協議した。学校教育における資料館の活用や他の社会教育施設との連携等について、活発に意見交換がなされ、多くの提言をいただいた。

②常設展の充実と特別展の開催では、特別展資料を常設展に追加し充実に図った。

#### ○特別展

〔歴民館〕「養蚕のしごと」（入館者 466 人）

「鎌倉時代の始良」（入館者 369 人）

〔郷土館〕「始良市の寺院と仏像」（入館者 348 人）

③学校の郷土学習への支援では、小学校 3・4 年生の「まち探検」や「昔の道具調べ」等に対応した。

〔歴民館〕小学校 7 校 488 人

〔郷土館〕幼稚園・小学校 4 校 297 人

④歴史ボランティアガイドの育成では、始良歴史ボランティア協会の活

動をサポートし、各種団体の史跡めぐりのガイドを行った。

⑤講演・歴史講座・体験学習等の開催では、ふるさと歴史講座、歴史ボランティアガイド養成講座、古典講読会、古文書研究会（入門）、『本藩人物誌』を読む、古文書講読会（中級）、古文書研究会（上級）を開講。夏休みの体験学習会は、ムーミン講座と共催で「まが玉づくり」（参加者 129 人）を実施。

⑥吉原事務所での出土品整理及び保存管理では、確認調査及び前田遺跡発掘調査出土遺物の整理作業を実施。資料見学希望者には適宜対応。

**【課題】**

③学校教育・社会教育での資料館利用の促進

**外部評価委員の評価点 平均 3.8 点**

## 4 図書館事務局の成果と課題

### 1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実

#### 『図書館サービス業務の充実』

##### 【成果】

①マスク着用や消毒、換気など感染症対策に努めながら、年間を通し、通常通り開館することができた。見学、研修受入についてもできる限り要望に沿う形で対応した。

##### 〈入館者数〉

中央図書館	159,864 人	
加治木図書館	24,473 人	計 188,702 人
蒲生公民館図書室	4,365 人	

##### 〈貸出人数〉

中央図書館	70,035 人	
加治木図書館	13,193 人	計 86,447 人
蒲生公民館図書室	3,219 人	

##### 〈貸出冊数〉

中央図書館	294,260 冊	
加治木図書館	60,417 冊	計 369,224 冊
蒲生公民館図書室	14,547 冊	

##### 〈見学・研修の受入状況〉

図書館見学（中央）	9 件	387 名
図書館見学（加治木）	3 件	111 名
地域貢献研修	4 校	4 名
職場体験研修	1 校	3 名
出前講座	1 件	36 名

②新刊案内資料や、選書カタログ、新聞情報等を利用し、社会情勢やリクエストなどから利用者のニーズを把握し、幅広い資料収集に努めた。図書資料、視聴覚資料、雑誌の購入数は、全館で 6,214 点で、蔵書数は、全館で 257,177 冊となった。

③今年度のスポンサーは 9 社 18 誌。商工会を通じた募集により昨年度比 3 社 6 誌増であった。

鹿児島連携中枢都市圏による利用者数は 1,507 人、貸出冊数は、205 冊、返却は 1,725 冊であった。広域利用については、館内掲示や、利用登録者への周知を図った。

おはなしボランティアあいは毎月 2 回、装丁ボランティアはなみずきは毎月 1 回、朗読ボランティアなでしこは毎月 1 回図書館で定期的な活動をされ、あひあいさんについては図書館フェスティバルでもおはなし会

をしていただいた。

④映画会は、国の新型コロナウイルスの基本的方針に従い行った。ふれあいプラザについては、設営、撤去に職員も立ち合うなど、安全な利用と今後の活用につながるように心がけた。また行政の事業の啓発・報告等の利用を促し、広報を行った。

親子映画会 100 回、960 人、水曜名画座 100 回、1,580 人

ふれあいプラザ・・14 回／年、延べ 190 日間の利用

#### 【課題】

①図書館未利用者への広報や新たな取組、視聴覚資料の更新に向けた資料選定等が課題。

②広域利用については、天文館図書館の開館により増えた鹿児島市への返却図書の手送料や返却方法が課題である。雑誌スポンサーにおいては雑誌の廃刊や価格変動等が多いため、スポンサーと密に連絡していくことが必要である。

③ボランティアの減少、高齢化、研修体制

④上映用視聴覚資料の計画的な購入や、映画会、ふれあいプラザ利用の広報の徹底

### 外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

#### 『読書活動の充実』

##### 【成果】

①子ども読書活動推進事業「ものがたりレシピをいただきます」では、希望校 9 校（対象 1,480 名）への出前読み聞かせや、読書登山、読書すごろく等の取り組みにより事業の推進に努め、多くの子どもたちが楽しみながら取り組む様子が見られた。

読み聞かせについては、中学校や、小学校の図書委員への依頼があったほか、子どもの読書活動ではないが、社会教育課のゆずり葉学級での図書館活用や読み聞かせの依頼があり、あらためて、読み聞かせの可能性や図書館の役割を感じる機会となった。また今年度初めて蒲生公民館図書室でのおはなし会を 2 回実施した。

ブックスタート事業は今年度も配本による対応となったが、ブックスタートのバッグを持って図書館に来館される方も多く、「おはなしだっこの会」へ夫婦や 3 世代で来られる方も多くみられるようになっており、読書推進につながっていると考える。ブックスタートの次の段階に向けて、セカンドブックリストを作成した。今後、掲示や関係部署、講座等での配布を考

えている。

移動図書館車については、今年度、保育所、特別支援学校、地域コミュニティの3箇所が加わり、利用の拡大につながっている。

②〈行事の参加人数〉

ふれあい講座・・・3講座 43人

図書館講演会・・・60人

図書館フェスティバル（入館者1,673人/貸出279人/1,127冊）

映画会131人、おはなし会63人、クイズラリー184人、

工作218人、ビブリオバトル19人、あいあい号見学90人

読み聞かせ講座・・・19人

夏休み図書館講座・・・3講座 103人

夏休みお話し会・・・62人

職場体験・・・・・・・・・・6件 17人

**外部評価委員の評価点 平均4.2点**

『視聴覚ライブラリーの充実』

【成果】

①あらたに視聴覚ライブラリーの利用案内と資料リストを作成し、館内に掲示したほか、年度初めの校長会・教頭会で利用方法の周知を図り、広報に努めた。②上映権付の教材を上映会用に借用し、映画会で活用した。

【課題】

①時代に即応した機材の更新

②学校連携による必要教材の把握

**外部評価委員の評価点 平均3.5点**

**2. 始良市立図書館ネットワークの充実**

【成果】

①新規利用申込者には、ウェブサービス、おサイフケータイについて案内し、ホームページ、広報紙による周知を図った。ウェブサービス新規登録者は200人で累計1,606人となり、予約件数10,483件のうちウェブによる予約は3,202件であった。おサイフケータイ新規登録者は27名で、累計428名となった。

②各図書館（室）間の配送業務を安定的に行い、各地区公民館図書室とも連絡を密にし、予約・返却資料の配本・回収等迅速に対応した。地区公民館図書室職員との連携が図られてきたことにより地域の利用者に応じた対応が図られてきている。また定期的に分室巡回配本を行っている。

③県立図書館や他市町村立図書館との相互貸借を活用し、利用者の求めに応じたい資料を提供した。県立図書館や、市立図書館から借用した冊数は475冊、貸し出した冊数は107冊であった。

**【課題】**

①ウェブサービス利用手続きの簡素化と利用しやすいシステム改善

②地区公民館図書室の充実と、図書館間で連携した、迅速なサービスに向けた取組の必要性。

③相互貸借では使送便のない図書館間の送料や貴重資料の取り扱いが課題である。

**外部評価委員の評価点 平均3.8点**

## 5 保健体育課の成果と課題

### 1. 生涯スポーツの推進

#### 【成果】

①生涯スポーツの充実については、スポーツ・レクリエーション団体、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ等と連携を図り、市民の体力づくり、健康増進、仲間づくりのために各種スポーツ・レクリエーションイベントを計画し、生涯スポーツの推進及びニュースポーツの普及を図った。

- ・レクリエーション体験会（60人参加）
- ・生涯スポーツ市民講座（15講座、延べ3,930人参加）  
うち校区対抗スポーツ大会  
グラウンドゴルフ 32組160名、ペタンク 15組60名  
ソフトバレーボール 12チーム、144名
- ・わくわくウォークラリー大会（22組77名参加）

②新型コロナウイルス感染症拡大の状況を留意しつつ、関係団体と協議し参加を制限するなど工夫をして実施した。

- ・あいらスポーツフェスタ（延べ1,955名参加）
- ・義弘公奉賛武道大会／剣道（185名参加）、弓道（294名参加）
- ・プロ野球OB全国少年少女野球教室（100名参加）
- ・始良市駅伝競走特別大会（50チーム、300名参加）

③スポーツ推進委員の定例会を定期的に開催し各種事業を連携し実施した。

#### 【課題】

- ①体育施設の適切な維持管理及び安心・安全なスポーツの場の提供
- ②積極的なイベント告知、募集等、多くの方のスポーツをするきっかけづくり
- ③スポーツ推進委員の資質向上及び市民にスポーツの楽しさを伝えるための手段の検討

**外部評価委員の評価点 平均4.8点**

### 2. 競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進

#### 【成果】

①競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進について、市スポーツ協会等

への補助金や全国大会等出場奨励金を交付し、組織力の強化、競技力の向上、スポーツ少年団の育成を図った。

・全国大会等出場奨励金 支給実績（延べ 394 人、3,143 千円）

②かごしま国体に向けて、ビーラインスポーツパーク始良体育館、蒲生体育館の床全面研磨、塗装及びライン引きを行い、競技環境の充実を図った。

社会体育施設の施設利用者数は、令和 3 年度より増加しており、コロナ禍前の水準にほぼ回復した。

・全体育施設年間利用実績 令和元年度（392,579 人）、令和 2 年度（321,665 人）、令和 3 年度（348,831 人）、令和 4 年度（409,353 人）

③ビーラインスポーツパーク始良野球場では、野球のプロアマ交流戦、薩摩おいどんカップが開催され、開幕戦には 2,000 人を超える来場があり、全 17 試合を通じて多くの市民にスポーツの観戦機会を提供できた。また、スポーツ合宿の受け入れによる施設の有効活用を図った。

・スポーツキャンプ実績 日本経済大学硬式野球部 33 日間 190 名、亜細亜大学硬式野球部 8 日間 55 名、西南学院大学硬式野球部 8 日間 45 名

#### 【課題】

①各競技団体による自主的なスポーツ活動や大会の開催及び組織の充実や競技力の向上

②各体育施設における、適切な維持補修と利便性の向上と利用者数の増加

③スポーツキャンプの誘致の際の県や他市町村との情報共有及び調整

### 外部評価委員の評価点 平均 4.8 点

## 3. 体力・運動能力の向上

#### 【成果】

体力・運動能力の向上については、①各学校に「運動大好き”かごしまっ子”育成推進プラン」を作成させ、体力向上に向けた目標や取組内容を設定させるとともに、具体的な変容の見取り方について改善を推進した。

市小中学校体育主任研修会の実施により、教師の体力向上への意識向上や国体ダンスの普及を推進した。（参加 22 名）

各小学校では新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、水泳記録会、陸上記録会に向けた積極的な取組を行い、コロナ禍の中で実施種目や

参加学年を工夫することにより実施することができた。児童生徒体力・運動能力調査結果では、体力合計点で本市の小学校の女子の平均が県平均、全国平均ともに上回る結果となったが、小学校男子、中学校男女は全国平均を下回る結果となった。

②「体力アップ！チャレンジかごしま」へ市内全ての学校が参加し、県内ベスト10に小学校3校（のべ11学級）中学校3校（のべ5学級）が入り、建昌小と重富小が学校賞を受賞した。

#### 【課題】

①体育科の授業改善に関する研修による運動好きの子供を増加

②児童生徒体力・運動能力調査による体力の傾向をつかんだ全体的な底上げ

その他として、今後の講習会等の開催における、子どもの体力向上のための課題を明確化した対策

### 外部評価委員の評価点 平均3.8点

#### 4. 健康教育の充実

##### 【成果】

健康教育の充実の①学校保健の充実については、学校保健安全法に基づき、健康診断や就学時検診を実施し、疾病等に関して指摘があった子どもの保護者へ、就学前に治療を行うよう指導することができた。

市学校保健会事務局（加治木小）により、第4回始良市学校保健研究大会を開催することができた。

アレルギー疾患を有する児童生徒への対応については、市教委作成の「学校におけるアレルギー疾患対応の手引き」に従った適切な対策を講じることができた。

新型コロナウイルス感染症対策については、学校との連携を密に行うとともに、国の補助金等を活用した消毒液等の衛生消耗品や空気清浄機等の換気対策用品の購入を推進し、感染症対策の充実を図ることができた。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況を学級単位で的確に把握し、学級閉鎖等の措置により学校内感染が拡大しないように努めた。

##### 【課題】

新型コロナウイルス感染症の2類から5類に伴う基本的な感染症対策の継続実施

## 外部評価委員の評価点 平均 4.4 点

### 5. 安全・安心な学校づくり

#### 【成果】

児童・生徒の登下校等の安全を見守る「始良っ子見守り隊」は市内で 630 名登録され、安全確保の充実に努めることができた。また、スクールガード・リーダー 4 名と通学路安全アドバイザー 1 名を委嘱し、各校区の通学路の安全や学校安全体制の一層の充実を図った。

始良市通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関と連携した通学路の安全確保のための協議や各校区ごとの対応シートの作成、市内 6 校の通学路合同点検、交通安全モデル校の指定等を実施した。

水難事故防止の観点から、児童生徒等の地域での安全の確保を図るため、校区内の危険箇所を点検させ、赤旗を設置させた。

不審者情報の事案発生時には迅速に各学校へ周知して注意喚起を行い、スクールガード・リーダーへも連絡し、パトロール等の協力の要請等をおして、児童生徒の安全の確保を図った。

#### 【課題】

交通事故や不審者情報の発生に対応するため、継続した児童生徒への指導の充実及び道路環境の整備の推進

不審者情報の正確な情報の把握のため、小学校高学年以上に対する細な情報（車のナンバーなど）の把握方法についての指導の強化

## 外部評価委員の評価点 平均 4.4 点

### 6. 食育の推進

#### 【成果】

食に関する指導の充実については、食育推進事業として次の 3 つの事業に取り組んだ。

- ・食育推進校の指定（加治木幼稚園、松原なぎさ小学校、重富中学校）
- ・食育講演会の開催（2月4日(土)始良公民館 170名出席）

食育講演会では、市の「あいら適塩(あんばい)プロジェクト」と関連した内容で健康増進課と連携しながら取り組んだ。ロビーでは市と包括連携協定を締結している明治安田生命保険の協力により血管年齢チェックや野菜摂取量の測定を行った。

- ・調理員等スキルアップ研修会（7月・12月 2回実施）

**【課題】**

食育講演会により多くの方に参加していただくための講演内容の充実及び講演以外の催しなどの検討

**外部評価委員の評価点 平均4.3点**

**7. 学校給食食育の推進**

**【成果】**

①安全・安心な学校給食の提供では、給食運営委員会の開催（センター：年3回）、市統一献立検討会の開催（毎月1回）、などに取り組んだ。

「食物アレルギー対応の手引き」に基づいては、全小・中学校で統一した取組を行った。また、栄養教諭や調理従事者等による徹底した衛生管理によって、食中毒関連の事案は発生しなかった。

②施設の充実については、調理機器の計画的更新を行いながら、設備の修繕にも迅速に対応し、調理作業の効率化を図った。

③学校給食衛生管理基準を充たしていない7校の自校方式給食室と加治木学校給食センターを統合した、新学校給食センターの整備については、基本計画策定業務に着手した。その業務の受託者選定にあたっては、公募型プロポーザルにより適切に執行し、契約締結後は、スケジュールどおりに基本計画（素案）をまとめた。

④学校給食費の公会計化を導入するため、システムの検討や条例の制定を行った。

**【課題】**

①新学校給食センター整備における、市民に対する事業の周知及び適正な事業手法の選定

④令和6年4月からの学校給食費の公会計化に伴う、給食運営委員会の在り方等の検討及び過年度未納分の債権の譲渡手続きや保護者への周知

**外部評価委員の評価点 平均4.8点**

## 6 国体推進課の成果と課題

### 1. 国体開催に向けた機運醸成

#### 【成果】

①従来どおりの広報啓発、PRグッズの製作・配布、ホームページでの情報発信に加え、SNS発信の追加、あいさつ運動を実施し啓発活動を広めることができた。市民運動に関しては、花いっぱい運動を実施し大会に向け市民ボランティアスタッフの募集を開始した。また、高校生カメラマンをはじめ市内高校生の活動協力を得ることができた。

②佐賀県との交流事業を実施し、両県の往来や情報交換を常時とれる体制作りができた。

#### (1) 広報啓発の取組

##### ○各種イベントでのPR活動

- ・ 錦江湾クリーンアップ作戦（7/23：重富海岸）
- ・ 県国体代表チーム壮行試合（8/13.14：県体育館）
- ・ バスケット3×3大会（8/28：イオンタウン始良）
- ・ 開催400日前街頭PR（9/2：イオンタウン始良）
- ・ 開催1年前イベント（10/10：あいらすポーツフェスタ）
- ・ 鹿児島レブナイズ公式戦等（年度内4回：始良体育館）
- ・ 開催300日前イベント（12/10.11：イオンタウン始良）
- ・ 開催200日前イベント（3/21-26：イオンタウン始良）
- ・ あいら春まつり（3/24：始良体育館）
- ・ SNS発信の追加（インスタグラム）
- ・ あいさつ運動の実施（市内小中学校：5.6.11.12月）

#### (2) 市民運動の取組

- ・ 学校観戦の希望調査、依頼、日程調整の実施（通年）
- ・ 資材配付（市内小中学校・コミュニティ協議会：8月）
- ・ 国体ダンスの普及（小中学校運動会での披露：9月）
- ・ 市民ボランティアの募集の実施（11月-3月）

#### (3) 鹿児島・佐賀エールプロジェクトの検討・取組

- ・ 現地視察、情報交換会の実施（8/7.8：唐津市）
- ・ 「SAGA スポテン」でのPR活動の実施（11/23：佐賀市）
- ・ 開催300日前イベント唐津市職員・観光協会来鹿（12/10.11：イオンタウン始良）

#### 【課題】

- ① ②開催に向けて新たな取組や後催縣市との交流を計画通り進めるこ

とができたが、市民への広い啓発にはさらに効果的な方法を再考する。

## 外部評価委員の評価点 平均 4.6 点

### 2. 特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」の開催準備

『実行委員会の取組』

【成果】

実行委員会の取組については、①新型コロナウイルス感染に注意を払いながら各会において現地開催、WEB 開催等により各体制の確認と構築が図られた。

②計画通り庁内推進会議を開催することができ各部課への周知、依頼、確認ができた。

③人事異動等で前回の編成より大幅な変更を要することとなったが、職員の理解により編成自体に支障は生じなかった。

④昨年同様、新規企業協賛を確保することができた。

#### (1) 実行委員会、専門委員会、庁内推進会議

○実行委員会等開催実績

- ・ 県実行委員会総会（1回：5月）
- ・ 市実行委員会総会（1回：7月）
- ・ 庁内推進会議（3回：5月、11月、3月）
- ・ 市常任委員会（1回：3月）

○競技別連絡会議

- ・ バスケ競技（1回：5月）
- ・ ゴルフ競技（3回：4月、11月、3月）
- ・ ライフル競技（1回：1月）
- ・ 競技運営連絡会議（2回：5、12月 Web 開催）

#### (2) 企業協賛の推進

- ・ あいおいニッセイ同和損害保険(株)鹿児島支店  
100,000 円（クリアファイル）
- ・ (株)Life plus home 100,000 円（応援ハリセン）
- ・ 千代田工業(株) 253,275 円（ボールペン）
- ・ (有)鹿児島第一保険事務所  
100,000 円（ボールペン）
- ・ 第一生命保険(株)鹿児島支社 始良営業オフィス

132,000 円（デジタルサイネージ）

【課題】

①新型コロナウイルス感染対策において、緩和の方向で進んでいるが、国県からのガイドラインの方向性が定まらないため市の判断を決められない時期があったので今後も慎重かつ適切に対処する。

④新規企業協賛において企業協賛の意義に理解が偏る業者がいたため適切な説明をした。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『競技別の準備』

【成果】

競技別の準備については、①競技団体共催市においてはリハーサル大会の準備と並行に協議を重ねることができ、併せて整備計画、競技役員等の編成においても共通事項の連携が図られた。日本バスケット協会から現地視察として来場してもらい情報交換をすることができた。

②とちぎ国体・大会は市実行委員会事務局職員、関係各部署職員と事前計画に基づき視察を実施した。

③始良・蒲生体育館の床研磨・床支柱の改修を施工した。

④行幸啓・お成りの情報提供をする県行幸啓室と必要な情報を共有することができた。

(1) 競技団体・共催市との連絡調整会議

- ・バスケット競技（5回：6月、8月、11月、12月、2月）
- ・ライフル競技（1回：8月）

(2) とちぎ国体・大会視察・抽選会視察

- ・抽選会視察  
ゴルフ競技（8/9：東京都）、ライフル競技（9/9：Web）  
バスケット競技（9/11：東京都）
- ・とちぎ国体視察（10/1-10/9：15名）
- ・とちぎ大会視察（10/28-10/31：3名）
- ・事業概要説明会出席（12/20-12/21：那須塩原市）
- ・事業概要説明会出席（12/22-12/21：宇都宮市）

(3) 施設改修工事（床研磨・床支柱）

- ・始良体育館 9,590,350 円
- ・蒲生体育館 8,504,650 円

- (4) 行幸啓・お成り連絡調整
  - ・ 県行幸啓室との協議（3回：7月、9月、1月）
- (5) バスケットボール競技リハーサル大会
  - ・ 蒲生高校・龍桜高校の生徒による創作品のふるまいを実施した。

**【課題】**

①競技団体との調整会議を進める中で、団体によっては理解が充分でないため更に共通意識の向上を図る。

④行幸啓・お成りに関しては競技会直前の情報のため不測の事態に備えることに留意する。

**外部評価委員の評価点 平均 4.4 点**

**『宿泊衛生、輸送交通』**

**【成果】**

宿泊衛生、輸送交通については、①組織再編と同時に宿泊衛生・輸送交通全般の見直しに取り組むことができた。学校観戦、輸送交通業務においては年度初めから関係部署との協議に着手したことにより無理なく情報を浸透させることができた。

②地区医師会との協議の中で、新型コロナウイルス感染対策における情報共有ができたことは、今後の対策に役立つものであった。

(1) 合同配宿、輸送計画、弁当調達業務は、共通業務であるため、本大会にあわせて再調査と再調整をおこない積算した。

(2) 地区医師会と救急対応時の搬入受入れの協力や、新型コロナウイルス感染のガイドライン作成における情報共有を継続していくことを確認した。消防・警察との調整は本大会開催年度（令和5年度）に実施予定とする。

(3) 日本スポーツ協会、県のガイドラインの策定状況により市の策定を再検討をした。

**【課題】**

①人件費高騰、物価高騰を受けて、積算業務の見直しを余儀なくされるが、来年度の予算と照らし合わせながら精査する。

**外部評価委員の評価点 平均 4.0 点**

### 3. 全国障害者スポーツ「燃ゆる感動かごしま大会」の開催準備

#### 【成果】

①各専門委員会や連絡調整会議への参加により進捗状況を確認する体制が継続できた。

#### (1) 連絡調整会議・専門委員会

- ・連絡調整会議（4回：4月、7月、11月、2月）
- ・専門委員会（3回：5月、11月、2月）〈うちWeb会議2回〉

#### 【課題】

県主体の運営であるため相互の理解に誤差が生じないように常に情報交換が必要である。

### 外部評価委員の評価点 平均4.0点

### 4. 競技別リハーサル大会の開催準備・競技会運営

#### 【成果】

①「全九州高校バスケットボール大会」をリハーサル大会に位置づけ、事前準備として市職員、関係団体や設営業者、出店業者との協議を重ね、本番では予想以上の来場者数を得られ、大会運営を終えることができた。

②運営面で不足部分が散見されたが、リハーサル大会を通して本番に向けて改善面を検討することができた。

#### (1) 開催準備、大会運営

- ・市職員説明会の実施（3月：3回）
- ・リハーサル大会の実施
  - 1日目（3/18） 男子：始良体育館 女子：蒲生体育館
  - 2日目（3/19） 男女：始良体育館

#### (2) 競技団体との連絡協議

- ・競技会の実施（鹿児島市：3回）

(3) ゴルフ競技連絡調整会議において開催に向けた具体的な方向性を確認した。

#### 【課題】

①バスケットボールリハーサル大会の中で競技団体内での連携が図られていない部分が多く実施本部（市職員）への依存が多かったので改善を求めた。

②ゴルフにおいても競技調整会議を重ねてきたが、団体側の情報提供の内容にバラつきがあったため今後も念入りな確認を続けていく。

### 外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

#### 5. デモンストレーションスポーツの開催準備

##### 【成果】

始良市がスタート開催となるデモスポ協議において、2月から3月にかけて大会要項、出場選手名簿、大会日程など競技団体との連携を入念に図り準備することができた。

##### (1) 各競技団体との協議

- ・ペタンク (5回：2月～3月)
- ・ダンススポーツ (5回：3月)

##### (2) 開催準備

- ・プログラム作成、委嘱状等、競技団体と委託業者とのレイアウト・内容校正の実施。

##### 【課題】

出場選手が定まらないまたは変更が生じる時期があるため競技団体と作成委託業者との連携を継続してもらう。

### 外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

## Ⅲ 教育委員の点検・評価・意見・要望等

### 教育総務課関係

#### 1. 教育委員会の活性化の推進

- ◆ 会議の3日前までには資料が届き、事前に目を通すことができ、定例会に臨むことができた。補足資料等も適宜準備されており丁寧な説明のもと時機を逸することなく十分に審議することができた。
- ◆ 総合教育会議においては、テーマに即した意見交換が行われ充実した会となった。
- ◆ コロナ禍において研修会が中止されることもあったが、県や地区・市主催の教育委員の協議会や研修会へ参加した。長崎への研究協議会では2日間の研修に参加し、研鑽を積むことができた。

#### 2. 適正な人事管理業の推進

##### 職員の資質向上と健康管理の保持

- ◆ 職員の人材育成を目指した研修が適切に行われている。
- ◆ 職員の身体や心の健康診断等が計画的に実施されている。

#### 3. 適正な財務事務の推進

##### 財務事務の効率的な運営・適正な予算の編成及び執行

- ◆ 事務職員研修会が計画的に実施されていた。適正に予算執行されている。

#### 4. 良好な教育環境整備の推進

##### 安全・安心な学校づくりと教育施設整備・教育環境整備状況

- ◆ 各施設の老朽化に伴う多くの整備事業やコロナ対策等について計画的に進められている。
- ◆ 計画的に進められているので、このまま安心安全な環境整備に努めてほしい。
- ◆ 小中学校のトイレに洋式化や手洗い場の自動水栓化・レバーハンドル化などが進んでおり、衛生的な環境がさらに整いつつある。
- ◆ 今後も優先順位を付けるなどして早めの改修等を進めていただきたい。

## 学校教育課関係

### 1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進

#### 豊かな情操・感性を育てる道徳教育の充実

- ◆ モラリティ・インプルーブメント推進事業は、今後も続けてほしい取組である。
- ◆ 実践推進校における実践発表の意見交換会では、中学生や高校生が参加することによりそれぞれの思いを共有することができて、より良い会となった。今後も続けてほしい。
- ◆ 「ことばのいずみコンクール」では、児童生徒の意欲的な発表がなされている。今後も継続してほしい。
- ◆ 道徳教育の啓発は講演会出席者だけではなく、各家庭にも浸透させていくにはどうしたらよいか考える必要がある。
- ◆ 市内全小・中学校の参加者が見守る中、モラリティ・インプルーブメント推進事業の西浦小と加治木小が発表を行った。分科会では各学校や地域における子ども達の様子が分かり、とても有意義だった。
- ◆ 今後も、全職員並びに多くの保護者に道徳教育の大切さを伝えていって欲しい。

#### 児童生徒の心に届く生徒指導の充実

- ◆ それぞれの事業で効果をあげている。適応指導教室の効果も表れている。今後もあいぴあとの連携による総合的な支援をより一層深めていただきたい。
- ◆ 連携による支援が、大きな成果を上げているが、児童生徒が抱える課題や家庭状況の改善に向けた支援を継続して取り組んで欲しい。
- ◆ 不登校の状態にある子どものほとんどが、適応指導教室に通い、中3生徒の全員が高校に入学できたことはよかった。今後は教室復帰できるよう更なる指導を期待したい。
- ◆ 一人でも不登校児童生徒が減らせるよう事業を続けて行ってほしい。

#### 人権教育及び体験活動や読書活動の充実

- ◆ 人権教育の重要性を広める啓発と研修・講演会等を計画的に行い、今後も人権教育の推進を継続してほしい。

## 幼児教育の充実

- ◆ 幼少保連携研修会をさらに充実し、小学校への接続が円滑に進められることを期待している。
- ◆ 公立幼稚園の園児数を確保するために園の魅力や活動などについて発信する手立てを講じてほしい。
- ◆ コロナ以前に行われていた幼保小の交流について、スムーズな幼保小の接続のため積極的に行ってほしい。
- ◆ スムーズな幼小接続の為に、これからも積極的に交流して欲しい。
- ◆ 接続の大切さが以前から言われている。幼・保・小連携は、これからもさらに深めることができるよう期待している。
- ◆ 幼小交流をもっと推進して欲しい。

## 2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進

### 「確かな学力」の定着

- ◆ 各中学校ブロックごとの小中連携による様々な取組が学力向上に反映されている。
- ◆ 市内全教職員対象に子供の自殺予防に関する教育講演会を実施することで、SOSの出し方・受け止め方についての理解が深まったことは大変評価できる。今後も続けてほしい取組である。
- ◆ 様々な取組が学力向上に繋がっているが、小中連携についてさらなる改善をお願いしたい。
- ◆ 3つの学力調査結果については、全小・中学校が実態把握をし、分析し、今後の対策を立てている。成果も出ているが、更に高みを目指してほしい。
- ◆ 中学校の学力向上に力を入れてほしい。

### 理数・外国語教育の充実

- ◆ 理数、外国語教育充実のために様々な事業が行われている。コロナ禍の中、児童生徒だけでなく教職員も理数、外国語について研修を深めることができている。大いに評価できる。
- ◆ サイエンスリーダー講座やサイエンスあいらんどは、コロナ禍の中実施されたことはとても評価できる。今後も、参加者数の確保や講座や研修会の充実に努めていただきたい。
- ◆ 理数、外国語教育の充実が目に見えて分かり、今後も継続して欲しい。

- ◆ A E Aが担任とともに、ゲームを取り入れた楽しい授業をしており、子ども達も生き生きしている様子が伺えた。

## 特別支援教育や情報教育の充実の推進

- ◆ 多様な特別な支援を必要とする児童生徒が増加していることから特別支援学級担任において専門性向上のため研修会等での資質向上に努めていただきたい。
- ◆ 特別支援教育支援員を対象とした研修会で、具体的支援方法について研修できたことで支援の質の向上につながったことは大いに評価できる。今後も続けてほしい。
- ◆ 就学に関することで多種多様な工夫をされていて効果も表れてきている。今後も続けてほしい。
- ◆ 福祉サービスを利用している幼児児童生徒が増えており、教育と福祉の連携について、より具体的な方法を協議していただきたい。
- ◆ I C Tを活用した授業づくりについて各学校の格差が出ないように取り組んでほしい。また、特別支援学級での端末の活用では、個別最適化された活用について研修が必要なのではと思う。
- ◆ 今後もより良い支援ができるよう、特別支援教育の理解、啓発活動の実施や連携の強化を継続して欲しい。
- ◆ 特別な支援が必要な子どもが増えつつあり、特別支援学級や支援員も増加されてきた。今後も適切な支援がなされることを期待する。
- ◆ 特別支援教育における I C T の活用を効果的に進められるよう努力していただきたい。

## 進路指導・キャリア教育の充実

- ◆ コロナ禍の中、昨年同様の事業所のご協力に感謝したい。
- ◆ 職場体験学習の代替として職業講話などが実施されたことは大変意義がある。令和5年度は、ぜひとも中学校における職場体験学習が実現できることを期待している。
- ◆ 事業所のご協力に感謝したい。
- ◆ 175の事業所が、キャリア教育に賛同していただいております。一部の中学校で職場体験学習ができなかったのは残念であるが、次年度はすべての中学校で実施できるものと思う。
- ◆ 子どもたちになぜキャリア教育が必要なのか、伝えてほしい。目的意識が低いと感じるので、事前指導を徹底していただきたい。

### 3. 児童生徒や保護者、地域に信頼される学校づくり

#### 体験活動や郷土教育の充実

- ◆ 学校ごとに特色ある教育活動がなされている。郷土の良さや社会貢献についてさらに充実させる取組をしてほしい。
- ◆ 郷土や校区にある素材を生かした郷土教育が各学校で行われている。地域と協力して実施している学校も多い。

#### 魅力ある学校づくりの推進

- ◆ 学校経営で顕著な成果を導き出した学校を選定し、取組内容を発表することで学校経営改善の視点を市内全校で共有されたことは、他の学校への刺激となり、今後改善されると期待している。
- ◆ 学校評議員会、学校関係者評価委員会における委員の学校に対する評価や意見等を踏まえて教育活動の改善につなげることが、学校によって差があるのではないかと思う。
- ◆ グランドデザインは、魅力ある学校づくりのために経営方針がしっかりと分かり保護者にも伝わりやすい。
- ◆ グランドデザインに校長の経営方針が示され、学校の方向性が分かるようになっている。また目標が数値化されており、分かりやすい。
- ◆ 校長のグランドデザインを各学校の末端まで伝わるように頑張っていたきたい。

#### 学校運営の充実及び教職員の資質向上

- ◆ 学校訪問では園や学校の特色や課題が分かり、課題解決策についても話し合われている。
- ◆ 研修会、学校訪問等が計画的に実施され評価できる。今後も資質向上のために内容をブラッシュアップしながら継続をお願いしたい。
- ◆ 管理職研修は計画的に実施されている。
- ◆ 学校訪問では、各幼・小・中学校の実態を実際に把握することができた。

#### 小規模校・複式教育の充実

- ◆ 小規模校ならではのきめ細やかな対応や特色ある活動などを紹介し、特認校制度について多くの地域や保護者に周知する手立てを行うことができている。

る。

- ◆ 特認校により人数の偏りがある。
- ◆ 小規模校では、学校のよさを生かした特色ある教育活動を進めている。成果も表れている。
- ◆ 特認校の生徒が増えていることは良いことだと思う。小規模校の学力が向上していることは称賛できる。

## 教職員の業務改善

- ◆ 業務改善に対する教職員の意識改革がなされている。職員の勤務時間に対する意識が改善されたことは評価できる。
- ◆ 時間の軽減と比例して、業務内容の効率化を進める必要がある。今後に期待したい。
- ◆ 教員の業務改善に向けて様々な取組をしており、評価できる。今後は残された課題の解決に向けての更なる取組が大切である。

## 社会教育課(社会教育係)関係

### 1. 社会教育の基盤づくり

#### 関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上

- ◆ 子育てサポーターとSC・SSWとの研修会の実施や家庭教育フェスティバルにおける乳幼児の保護者を対象にした体験ブースの設置など具体的に実施できたことで、事業に反映されたことは素晴らしい。
- ◆ 提言を受け、実施、反映され素晴らしい。
- ◆ 社会教育委員の会では、研究テーマを設けるなどして、様々な提言を行っている。それが家庭教育に関する事業に生かされている。

#### 社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化

- ◆ 情報発信の在り方も工夫した対応がなされている。今後も引き続きわかりやすい情報発信をお願いしたい。
- ◆ 子ども会加入率の減少は今後も取り組むべき課題である。支援を続けてほしい。
- ◆ 加入率の減少が見られる団体へ提案、支援したその後が知りたい。

- ◆ 県や地区主催も各種リーダー・指導者研修会に関係団体から多くの方が参加している。

## 2. 青少年教育の充実

### 生きる力を備えた青少年の健全育成

- ◆ コロナ禍においての研修はご苦労があったことと思うがどの事業も工夫され実施できたことは評価できる。今後も青少年育成活動に力を入れていただきたい。
- ◆ 二十歳の式典では、感染症対策を講じ、一部制にして実施出来たこと、2年ぶりのオープニングに行われた蒲生郷太鼓坊主の演奏、始良市在住の技能実習生の参加が実現し、盛大に式典を開催出来たことは大いに評価できる。
- ◆ 様々な事業は子どもたちの経験と財産になったと思う。今後もさらに認知度向上に取り組んで欲しい。
- ◆ 青少年育成事業がいろいろ実施されており、規模の大きなものもある。参加した青少年がやがてリーダーとなって活躍してくれればと思う。
- ◆ コロナ禍でも多くの事業に取り組んだことを評価できる。

## 3. 家庭教育・成人教育の充実

### 家庭教育の充実

- ◆ 家庭教育の推進についても様々な具体策が実行され、さらに充実したものになっている。大いに評価できる。
- ◆ 小、中学生の段階から配布された子育て手帳の活用がよく分からない。
- ◆ 全市立幼・小・中で家庭教育学級が開設されており、年間を通じた講座が計画されている。学級生を更に増やしてほしい。
- ◆ 今後も家庭教育の充実に努めて欲しい。

### 成人教育の充実・人権教育の推進

- ◆ 各学級の学習内容など工夫されている。新規加入者増が課題である。
- ◆ 生涯学習の場が充実しており素晴らしい。
- ◆ 女性や高齢者向けの学習講座が開設されている。成人学級としてより多くの市民が参加されるような工夫も必要である。

## 4. 社会教育施設の充実と利用促進

- ◆ 学校行事や地域行事での活用が増加していることは大変喜ばしいことである。今後は、施設の老朽化にもしっかり対応していただきたい。
- ◆ これからもいろいろなイベントやサービス向上を期待したい。
- ◆ ほとんどの施設で利用者数が増えており、活気を感じる。これからも運営を充実していただきたい。
- ◆ 利用者が増加しているのは喜ばしい。
- ◆ 棕鳩十文学記念館で毎月行われている市立幼稚園・小学校、市内読書グループの親子読み聞かせ会の実施について、市民への周知をお願いしたい。

## 社会教育課(生涯学習係)関係

### 1. 生涯学習の推進

- ◆ 昨年中止された生涯学習フェアが新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い開催されよかった。活動事例発表や展示など内容も工夫されていた。

### 2. 芸術文化活動の振興

- ◆ コロナ禍の中、青少年劇場及び芸術鑑賞事業、小学校訪問演奏会、市立少年少女合唱団の活動、始良10号美術展、市文化芸術祭の開催を計画通り実施されたことはとてもよかった。芸術に触れられる機会を今後も続けてほしい。
- ◆ 少年少女合唱団の内容充実と入団、集客へのPRをもっとお願いしたい。
- ◆ 市文化芸術祭は、若い世代の出演も期待したい。

### 3. 公民館施設の充実

- ◆ 今後も維持管理について計画的に行い、整備をお願いしたい。
- ◆ 今後も安心安全であるように計画的に整備をお願いしたい。

### 4. 公民館事業の充実

- ◆ 生涯学習講座は昨年より講座数・受講者数、公民館施設利用者数ともに増加している。アンケートを踏まえての講座開設など子育て世代・就労世代が受講しやすい講座の開設の検討をお願いしたい。
- ◆ 若年層の受講者数アップのためにも、新たな講座開設の検討をお願いしたい。

- ◆ 若年層の参加を増やす工夫をしてもらいたい。

## 社会教育課(文化財係)関係

### 1. 指定文化財登録文化財の保存・活用

- ◆ 市の文化財の維持管理等が適切に行われている。
- ◆ 始良歴史ボランティアとの連携でさらに子どもたちが文化財に触れ、郷土について理解する機会が増えることを期待する。
- ◆ テレビ番組名を模した史跡の紹介をしたことは、市民に文化財に興味を持ってもらえる機会になったと思う。このようなアイデアをどんどん出していきたい。
- ◆ 児童生徒に市内の多くの文化財のことをもっと知ってもらいたい。
- ◆ 文化財に関する情報発信に取組めたことは評価できる。
- ◆ 今後も学校教育との連携を深めて、児童生徒が文化財に触れる機会を多く作ってほしい。

### 2. 埋蔵文化財の保存・活用

- ◆ 前田遺跡調査成果の一般公開やその他の遺跡についての調査や成果の公表、展示の計画など今後に期待している。
- ◆ 前田遺跡の発掘調査書を刊行し、更に報道発表も行った。今後は、市民だけでなく、県内・県外も対象とした公開も考えてほしい。

### 3. 郷土芸能の保存・育成

- ◆ コロナ禍の中、感染対策を図り規模を縮小して実施できたことは評価できる。
- ◆ 郷土芸能の保存・伝承活動の支援や補助をしたことは評価できる。
- ◆ 保存、継承することはとても大変なことだと思う。補助金交付の継続と、場の提供を続けて欲しい。
- ◆ 郷土芸能の伝承・継者育成が課題となっている。  
今後も保存会に対して、支援を続けていくことが大切である。

## 4. 施設の充実

- ◆ 学校教育や生涯教育とも連携を図り、利用促進の周知をお願いしたい。
- ◆ 夏休みの体験学習会など子どもや保護者が気軽に参加できるように周知してほしい。
- ◆ 内容の工夫、充実をさらに進め、来館者の増加ができるようにして欲しい。
- ◆ 常設展示だけでなく、特別展を開催できたことはよかった。内容も興味深かった。
- ◆ もっと多くの子どもたちに利用してほしい。

## 図書館事務局関係

### 1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実

#### 図書館サービス業務の充実

- ◆ ボランティアの方々の支えが大きな力となっている。感謝したい。
- ◆ 年間を通じて通常通り開館することができてよかった。入館者数も昨年より増えている。
- ◆ 広域利用の課題を解決できるようお願いしたい。

#### 読書活動の充実

- ◆ 子ども読書活動推進事業では、学校と連携し様々な取組が行われている。今後も続けてほしい。
- ◆ 中学校やゆずりは学級での読み聞かせは、今後も続けてほしい取組である。
- ◆ ブックスタートは、乳幼児を持つ保護者にとってとてもありがたい事業である。次の段階にもさらにサポートしていただきたい。
- ◆ 読書推進のために様々な取組がなされている。
- ◆ 図書館から遠い距離にある施設等に対し、移動図書館車の果たす役割は大きい。

#### 視聴覚ライブラリーの充実

- ◆ 利用者のニーズに合わせた工夫をお願いしたい。
- ◆ 個人で手軽に視聴できる時代になったので、それと差別化できるか問題で

ある。

## 2. 始良市立図書館ネットワークの充実

- ◆ ウェブサービスの利用者数が増加している。より便利に利用できるよう改善し、利用促進に努めていただきたい。
- ◆ 今後もより良いサービスの提供を期待する。
- ◆ ウェブサービス登録の利用者が増えているが、更なる周知に努めることが大切である。

## 保健体育課関係

### 1. 生涯スポーツの推進

- ◆ コロナ禍の中、レクリエーション体験会や始良スポーツフェスタ・プロ野球OB全国少年少女野球教室など、子どもたちへ夢と希望を与えられる事業を実施することができたことを大いに評価する。今後もぜひ続けてほしい。
- ◆ 市民が参加しやすいイベントの実施が素晴らしい。今後も積極的に企画、実施をして欲しい。
- ◆ いろいろなスポーツ大会を開催しており、工夫もなされている。
- ◆ より多くの方の利用推進の工夫が必要である。

### 2. 競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進

- ◆ 全国大会等出場奨励金支給は選手にとって大きな支援となる。今後も支援をお願いしたい。
- ◆ 薩摩おいどんカップの開催はとても良かった。今後もこのような観戦機会や経験、また合宿の受け入れなどによる有効活用を積極的に企画して欲しい。
- ◆ 2つの体育館のフロアは、きれいに整備された。国体が楽しみである。
- ◆ 薩摩おいどんカップでは、アマチュアからプロまでの多くの野球チームが参加する大きな大会となった。
- ◆ 全国大会出場奨励金は、今後も継続していただきたい。

### 1. 体力・運動能力の向上

- ◆ 児童生徒体力・運動能力調査結果を踏まえて、授業改善を推進し運動好き

な子供の育成に努めていただきたい。

- ◆ 「体力アップ!チャレンジかごしま」へ市内全ての学校が参加したのは素晴らしいが、内容の充実や、生徒児童のモチベーションは担任の資質次第でもある。
- ◆ 「体力アップ!チャレンジかごしま」では、よい成果を収めているものの、耐力・運動能力調査結果では、平均以下の項目が少ない。体を動かすことが好きになるような工夫を続けて欲しい。
- ◆ 体力・運動能力向上に向けた努力・工夫が必要である。

## 2. 健康教育の充実

- ◆ 各学校において、濃厚接触者等への対応マニュアルの活用や様々な感染症対策に係る物品の購入により、新型コロナウイルス感染症対策の充実出来たこと大いに評価できる。
- ◆ アフターコロナに沿った整備を求めたい。
- ◆ 健康診断等は、適切に行われている。
- ◆ 学校には、消毒液などの衛生消耗品や空気清浄機などが完備されている。

## 3. 安全・安心な学校づくり

- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策において、様々な工夫がなされている。評価できる。
- ◆ 始良っ子見守り隊の方々をはじめたくさんの方々の登下校の見守りに感謝している。また、不審者情報の事案も多いが、学校・行政・スクールガードリーダー・安全アドバイザー・始良っ子見守り隊の連携が適切に行われていて大変ありがたいことである。大いに評価する。
- ◆ 地域の方々の見守りはとてもありがたい。
- ◆ 始良っ子見守り隊は、子どもたちの登下校時に毎日見かける。安全に大きく貢献されている。
- ◆ 「始良っ子見守り隊」の登録者数が増えていることは大変ありがたい。

## 4. 食育の推進

- ◆ 給食の残食について課題にしている学校も多いことから、食育について学校・家庭連携して取り組んでほしい。
- ◆ 食育推進校を年次的に指定することにより、教師と子どもたちも学習、食への理解・関心を深めている。

## 5. 学校給食の充実

- ◆ 安全・安心な学校給食を提供するためにも、施設充実が不可欠である。新学校給食センター整備がスムーズに行われることを期待している。
- ◆ 公会計化へスムーズに移行できるよう、準備を進めて欲しい。
- ◆ センター方式、自校方式ともに、安全でおいしい給食の提供に努めた。

## 国体推進課関係

### 1. 国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の実施

#### (1) 国体開催に向けた機運醸成

##### 広報活動、市民運動の促進

- ◆ 広報啓発の取組や佐賀県との交流事業の実施、市民運動の取組など工夫を凝らした取組を大いに評価する。
- ◆ 市民が参加しやすいイベントの実施が素晴らしい。今後も積極的に企画、実施をして欲しい。
- ◆ いろいろな広報活動を実施し、多くの市民に国体・障害者スポーツ大会を知らせることができた。
- ◆ 本番に向けて周知を図っていただきたい。

#### (2) 特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」の開催準備

##### 実行委員会の取組

- ◆ 実行委員会の取組も成果があり、順調に取り組んでいる。企業協賛についても成果を上げている。
- ◆ 総会をはじめ、すべての会が予定通り実施され、計画が推進された。

##### 競技別の準備

- ◆ 競技別の準備として様々な取組がなされ、本国体に向けての準備がしっかりなされている。
- ◆ 始良・蒲生両体育館の床が研磨・塗装されて、きれいになった。

## 宿泊衛生、輸送交通

- ◆ アフターコロナに沿った整備を求めたい。
- ◆ 始良市のことだけでなく、県や共同企業体との連携が大切なので、綿密な連携を取り本番を迎えて欲しい。
- ◆ 大事なポイントとなることなので、準備を確実に実施してほしい。
- ◆ 地域の方々の見守りはとてもありがたい。

## (3) 全国障害者スポーツ「燃ゆる感動かごしま国体」の開催準備

- ◆ 障がい者スポーツ大会においてももしっかり対応している。
- ◆ 県や競技団体との連絡をしっかりととり、大会がスムーズにいくようお願いしたい。

## (4) 競技別リハーサル大会の開催準備・競技会運営

- ◆ リハーサル大会を通じて本番に向けて改善し、本番に向けて取り組んでほしい。
- ◆ バスケットボールのリハーサル大会では、本番に向けての改善点などを確認することができて、良かった。

## (5) デモンストレーションスポーツの開催準備

- ◆ デモンストレーション競技においても、市民への広報をお願いしたい。
- ◆ ペタンクとダンススポーツが始良市でスタート開催となったが、競技団体と事前に十分協議し、計画通りに進められてよかった。

## IV 外部評価委員の点検・評価・意見・要望等

### 教育総務課関係

#### 1. 教育委員会の活性化の推進

- ◆ 定例教育委員会が、単に行政側の説明だけに終わることなく、積極的な意見交換と審議がなされている。今後も、事前の資料提供や補助資料の準備等に心がけていただきたい。
- ◆ 定例会・臨時会ともに適切な時期に計画され、資料も3日前に配付され、議案についてしっかり協議されていると評価できる。
- ◆ 定例教育委員会が充実している。今後の具体的企画・立案に期待する。
- ◆ 本市の教育課題等の解決に向けた各種会合や研修会が計画的に行われている。
- ◆ 総合教育会議で市長と教育委員会が教育のあるべき姿と本市の課題について共有し連携を強化できたことは素晴らしく今後も教育の推進に向けて意思疎通を図ってほしい。
- ◆ コロナウイルス感染症の拡大する中で、積極的に各種行事に参加し、学校訪問も全て実施し、学校の実情や課題を確認し、解決に向けて対応していることに評価できる。
- ◆ 教育委員会の活性化のためには、教育委員の方々の資質向上が最も大切である。今後とも、教育委員の方々の様々な研修の機会を通して、教育委員の方々の資質向上を図っていただきたい。

#### 2. 適正な人事管理業務の推進

- ◆ 様々な研修が計画的に実施されている。県内でも、職員の不祥事が起こっている。公務員としての自覚を持たせるためにも服務指導に力を入れていただきたい。
- ◆ 感染対策をしながら職員研修、健康診断等が適正に実施されている。今後も職員の資質向上と健康管理の保持に努めてほしい。
- ◆ 適切に行われている。
- ◆ 健康診断や人間ドック、新型コロナ対応等が適切に行われている。

### 3. 適正な財務事務の推進

- ◆ 厳しい財政状況の中で、いかに予算を有効に活用するかが求められている。「高額備品の購入・更新計画書」に基づき、計画的な予算執行に努めてほしい。
- ◆ 厳しい財政状況にありながらも、限られた予算で、できる限り多くの事業と効果的な運営・適正な予算実行がなされていると評価できる。
- ◆ 適切な予算執行が行われている。
- ◆ 学校の高額備品に関する年次的購入・更新基準の早急な策定をお願いしたい。

### 4. 良好な教育環境整備の推進

- ◆ 「学校教育施設整備等検討委員会」に基づき、計画的に施設の整備がなされている。年度途中で、突発的な施設整備が出てくることも想定しながら、安全、安心な環境整備に努めてほしい。
- ◆ 学校や各施設の整備状況を把握し、限られた予算の中で改修・整備をしっかりと行っている。  
今後も施設環境と衛生環境の維持・向上に努め、整備を行ってほしい。
- ◆ 改修等が計画的に行われている。ICT整備についてはさらに推進してほしい。
- ◆ 各施設の新築・建替え・改修が年次計画に沿って進められている。

## 学校教育課関係

### 1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進

#### 豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実

- ◆ 「学級経営研究会」の内容を工夫したり「モラルティー・インプルーブメント実践推進校」の加治木中の意見交換に中・高校生が参加するなど工夫がなされていて良かった。
- ◆ モラリティ・インプルーブメント推進事業の実践発表で学校・家庭・地域の三者協働により、中学生や高校生と意見交換を交わし、道德教育の充実が図られたことはとても評価できる。

- ◆ 豊かな感性が育まれ、素直な子どもたちが多いと感じている。さらなる道徳教育の充実に期待する。
- ◆ タブレットを使った道徳実践事例集を各学校へ配付し、更にワークシートをタブレット上で共有できるようにしたことは、各学校での道徳教育の推進・充実に資する素晴らしい取組である。
- ◆ 郷土を知り、郷土に誇りをもつことの大切さを多くの方々に知ってもらうための東川隆太郎氏の講演は、とてもいい企画だったと思う。

## 児童生徒の心に届く生徒指導の充実

- ◆ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのニーズは、毎年高まってきていると思う。今後、どの学校に、どのような配置をしたり、派遣したりするか等、できるだけ、学校の要望に応えるようにしてほしい。
- ◆ 児童・生徒が抱える問題や家庭での生活の悩み等のニーズが増える中、市独自のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置により、相談できる体制が整っていることは、児童・生徒・保護者にとって心身的に支えられていると思うので、今後も取組を継続して欲しい。
- ◆ 不登校児童生徒の増加により、スクールカウンセラーのニーズはますます高まると考えられる。児童生徒及び保護者の支援に継続して取り組んでほしい。
- ◆ 不登校は本市にとって大きな課題であるが、適応教室に通っていた中3生徒の全員が高等学校に入学できたことは素晴らしい。
- ◆ 不登校児童生徒への対応は、大きな課題であると思う。

## 人権教育及び体験活動や読書活動の充実

- ◆ 人権教育は、学校はもとより、社会教育を含め、市全体で取り組むことが大切である。SNSによる誹謗中傷で、自ら命を絶つ事例も見られる。各学校においても、真剣な取組を期待したい。
- ◆ 人権教育の研修・講演会を計画し、人権教育の重要性を広める啓発と人権教育の推進を今後も続けてほしい。
- ◆ 集団宿泊学習や小・中合同音楽会は、児童・生徒たちにとってとても貴重な体験と経験になるので今後も継続してもらいたい。
- ◆ 人権教育は全ての教育活動を通じて行うものであるということを、学校全体で共通理解して、実践につなげていただきたい。
- ◆ コロナ感染予防に様々な対策を講じての『学校単位での宿泊学習』、『2会場に分散しての小・中合同音楽会』を開催できたことは、児童生徒相互の交流を深める良い機会となった。

- ◆ 今後もより多く広めて積極的に実施してほしい。

## 幼児教育の充実

- ◆ 幼保小連携の諸事業が、研修内容を工夫して実施されていることは評価したい。
- ◆ 公立幼稚園の園児数は、どのような状況であるのか教えてほしい。
- ◆ 幼・保・小の連携が研修会や協議により情報交換がなされ、共通理解が図られてきていると評価できる。今後も小学校へスムーズな接続ができるように積極的に交流を行ってほしい。
- ◆ 全国的に事故等が増えているので、安心安全で魅力ある経営に努めてほしい。
- ◆ 小学校への接続がスムーズにできるよう今後も幼保小交流の充実を図っていただきたい。
- ◆ 今後も幼少保への接続が、スムーズにできるよう研修会等の充実を図っていただきたい。

## 2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進

### 「確かな学力」の定着

- ◆ 鹿児島学習定着度調査や全国学力・学習状況調査によると、概ねいい結果が出ている。鹿児島学習定着度調査では、中学校の取組が課題である。日々の授業改善に力を入れてほしい。
- ◆ 確かな学力の定着を図るため、指導力セミナーや学力向上講習会・研修会など様々な取組が計画され、理解や意欲を高めていることに評価できる。
- ◆ 小・中連携をしっかりと図り、中学校へスムーズな接続ができるように努めてもらいたい。
- ◆ 中学校において、課題を発見する力、課題を解決する力、正解をすぐに求めるのではなく粘り強く考える力の育成に努めてほしい。
- ◆ SOSの出し方・受け止め方についての研修は大変評価できる。
- ◆ 全国学力・学習状況調査、標準学力調査では、小・中学校ともに市・県・全国平均を上回っている。市全体としての様々な取組が学力向上に繋がっていると思われる。

## 理数・外国語教育の充実

- ◆ 小学校2校への理数定着支援員の配置はとても良い。
- ◆ 外国語教育の充実のための様々な取組は評価できる。今後、更に成果を出せるような取組の工夫をしてほしい。
- ◆ 理数・外国語教育の充実を図るため、いろいろな取組が行われていて、各種学力調査等で成果が現れていることに評価できる。
- ◆ サイエンスリーダー講座やサイエンスあいらんどが、感染対策を講じながら実施できたことは評価できる。今後も継続してほしい。
- ◆ 理数・外国語教育が進んでいると思う。課題も明確になっているのでさらなる改善に期待する。
- ◆ 全国学力・学習状況調査、標準学力調査では、小・中学校ともに市・県・全国平均を上回っている。市全体としての様々な取組が学力向上に繋がっていると思われる。

## 特別支援教育や情報教育の充実の推進

- ◆ 特別支援教育の充実については、毎年そのニーズが高まってきている。そのための人的確保、質的充実が求められている。今後とも、一人一人の児童生徒へのきめ細かい対応をお願いしたい。
- ◆ 一人一台のタブレット端末の活用は、児童生徒にとって、より大きな効果が期待できる。そのための活用方法を各学校に提供してほしい。
- ◆ 市内小中学校に58人の支援員を配置し、特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、細やかな支援をして頂けていることに感謝し評価できる。今後も支援を必要とする児童・生徒が増えると思うが、支援の資質向上を図り、細い支援で児童・生徒たちが困ることのないよう保護者とも連携を図って対応してもらいたい。
- ◆ 特別支援教育の充実が図られていると思う。今後、関係機関の連携がうまくいくように、方法等についてより具体的に見直しを行ってほしい。
- ◆ 特別支援の必要な児童生徒の増加傾向と特別支援学級担任経験3年未満の教師が半数を占めている現状への対応として、関係機関との連携や各種研修会での具体的な支援方法等の研修が行われている。

## 進路指導・キャリア教育の充実

- ◆ 職場体験学習の取組として帖佐中学校の「かごたん」の取組が紹介されていた。このような地域企業と学校が繋がり、生徒の主体的な取組ができるような事業は、とても素晴らしいと思う。

- ◆ コロナ禍でも賛同しキャリア教育に協力して下さる事業所が多くあることに感謝したい。
- ◆ 職場体験学習がコロナで実施できない学校には、職場講話を代替で実施できたことは評価できる。
- ◆ これからも事業所と共通理解を図り、キャリア教育・職場体験の取組を継続してほしい。
- ◆ キャリア教育の具体的内容を常に見直し、改善を加えていく必要があると思う。
- ◆ あいらキャリアサポートバンクに例年同様 175 の事業所が賛同いただいている。
- ◆ 各学校での職場体験学習や職業講和の事前・事後の取組の情報交換や事業所代表との意見交換等の場の更なる充実を期待したい。

### 3. 児童生徒や保護者、地域に信頼される学校づくり

#### 体験活動や郷土教育の充実

- ◆ 「ムーミン講座」には、多くの児童の参加申し込みがある。子どもたちの体験活動の場として、保護者の理解が得られていることが有難い。
- ◆ 地域の特色を生かした体験活動が、市内の学校ごとに実施され、地域の方々にも協力をもらいながら児童・生徒と交流し郷土を知る機会になっている。今後も郷土教育を継続してほしい。
- ◆ 総合的な学習の時間がより充実してきていると思う。地域における体験活動は、児童生徒の将来につながる大事な機会である。
- ◆ 各学校では、地域の特色を生かした体験活動等が取り入れられている。

#### 魅力ある学校づくりの推進

- ◆ 校長研修会で、顕著な成果を出している学校の取組の情報共有の機会を持ったことは、とても素晴らしいと思う。学校経営に、校長の創造性を期待したい。
- ◆ グランドデザインに基づく学校経営が、各学校でしっかり行われている。その中で顕著な経過を導き出した学校を選定し、取組内容を発表し、市内の全校で共有できたことは、改善につなげる良い機会になったと評価したい。
- ◆ 学校全体で共通理解し、共通実践につなげていただきたい。
- ◆ グランドデザインには、校長の経営方針が示されており、数値化による達成状況の把握ができるようになっている。

## 学校運営の充実及び教職員の資質向上

- ◆ 管理職としての理念、指導力、職責感、人間性を高めるためにも、管理職研修会の充実はとても重要である。今後とも、管理職の心に灯をともしよう研修の在り方について工夫してほしい。
- ◆ 学校訪問や研修会がしっかり計画され、課題の改善や資質向上も図られていると評価できる。
- ◆ 管理職用評価シートを活用しての授業改善についても、管理職に活用方法をしっかり周知してもらいたい。
- ◆ 管理職研修会及び学校訪問が適切に行われており、今後の課題も明確である。授業改善についてはさらに推進していただきたい。
- ◆ 管理職や教職員の資質向上のための各種研修会が計画的に実施されている。

## 小規模校・複式教育の充実

- ◆ 小規模校であるからこそできる教育があると思う。その良さを各学校がアピールしながら、更に特色ある学校づくりに努めてほしい。
- ◆ 小規模校のよさを生かした特色ある教育活動が行われている。複式校が一堂に会して研修や集合・交流学习が行われ、成果を上げていることは評価できる。情報交換や連携を図り、更に充実を図ってほしい。
- ◆ よく検討され、課題が明確である。さらなる改善に期待する。
- ◆ 複式校が一堂に会しての研修や集合・交流学习が行われ、成果を上げていることは大いに評価したい。

## 教職員の業務改善

- ◆ 教職員の業務改善は喫緊の課題ある。その項目を新たに挿入したことは評価できる。各学校における業務改善の取組を情報共有しながら、成果と課題を明確にして、働きやすい職場環境に努めてほしい。
- ◆ 校務支援システムを利用し、教員の業務改善を図る取組がなされていると評価できる。
- ◆ 教職員の意識改革と教頭の業務改善を推進していただきたい。
- ◆ 教職員の業務改善として、市内全校に校務支援システムを導入したことは、大いに評価したい。

## 社会教育課関係（社会教育係）

### 1. 社会教育の基盤づくり

#### 関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上

- ◆ 社会教育委員からの提言を受け、各事業に反映をした取組は、とても評価できる。ともすれば、形式的な会に終わってしまいがちなところがあるので、今後もこのような取組を期待したい。
- ◆ 子育てサポーターとSC・SSWとの研修会と家庭教育フェスティバルにおける乳幼児の保護者を対象にした体験ブースの設置を実施できたことに評価したい。
- ◆ 提言を受けて、新たな取組が行われことは大変評価できる。
- ◆ 社会教育委員からの提言が、家庭教育支援事業に生かされている。

#### 社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化

- ◆ 組織加入率が減少している団体はどのような団体なのか、そのためにどのような取組を行っているのか知りたい。
- ◆ 次世代のリーダー育成に向けた人材発掘と組織加入者が減少している団体への支援について改善を図ってほしい。
- ◆ 情報発信として、市報やホームページ、地域防災メールが有効に活用されている。

### 2. 青少年教育の充実

#### 生きる力を備えた青少年の健全育成

- ◆ 青少年育成のために様々な事業を実施していることは、とても評価できる。参加者が増えている事業については、多くの申込者が受講できるような配慮（これまでの参加状況を考慮）をしてほしい。
- ◆ 青少年事業がコロナ禍においてもいろいろ実施され、取り組まれたことに評価できる。
- ◆ 全小中学校にコーディネーター、全中学校区ごとに統括コーディネーター、家庭教育サポーター、全小学校区にコーディネーター22人を配置し、多様な活動を実施していることに評価したい。

- ◆ コロナ禍でも充実した活動が行われたと思う。

### 3. 家庭教育・成人教育の充実

#### 家庭教育の充実

- ◆ 子育ての悩みを抱える保護者の方々のニーズに応えるための諸事業を、今後も幅広く展開してほしい。子育ての基本は、家庭教育の充実である。
- ◆ コロナ禍での学習方法を提案し、家庭教育学級が実施され、学級生2,194人が学び、悩みの解消へ向けた取組ができていることにとっても評価できる。
- ◆ 家庭教育をサポートする取組が充実している。今後も継続してほしい。
- ◆ みんなで支える家庭教育推進事業では、様々なモデル事業が開催され、充実している。

#### 成人教育の充実・人権教育の推進

- ◆ 高齢者学級の参加状況は課題ではないかと思う。更に多くの方々の参加が得られるような、内容の充実した魅力ある講座を工夫してほしい。
- ◆ 市民の生きがいづくりや仲間づくりの場として生涯学習の場があり、年間を通していろいろな講座を行っていることに評価できる。
- ◆ 女性や高齢者向けの講座が開設されており、学習内容も工夫されている。

### 4. 社会教育施設の充実と利用促進

- ◆ どの施設も、コロナ禍を乗り越えて多くの利用がなされていることは、とても評価できる。指定管理になった施設については、利用者のニーズにしっかり応えられるような運営をお願いしたい。
- ◆ 各施設で利用者が増加していることにうれしく思う。利用者が気持ちよく利用できるようにサービスや施設の整備等にも対応していってもらいたい。
- ◆ すばらしい施設で工夫を凝らした取組がなされている。今後ますます利用が促進されるようお願いしたい。
- ◆ 社会教育施設の利用者が、増加していることは大いに評価したい。

## 社会教育課関係（生涯学習係）

### 1. 生涯学習の推進

- ◆ 多くの市民が参加したくなる、魅力ある生涯学習フェアをお願いしたい。
- ◆ 生涯学習フェアが、感染対策を行い開催されたことに評価できる。
- ◆ 市民のニーズに応じた講師の選定をお願いしたい。
- ◆ 生涯学習フェア開催の来場者増加に向けた更なる広報・周知活動をお願いしたい。

### 2. 芸術文化活動の振興

- ◆ 市立少年少女合唱団の活動が再開されたことは喜ばしい。しかし、団員数の減少は喫緊の課題である。他市の合唱団との交流なども工夫して、魅力ある合唱団構築に向けて、更に努めてほしい。
- ◆ コロナ禍で感染対策をしながら、芸術鑑賞や演奏会が実施できたことは、児童・生徒たちにとって良い機会であったことと評価できる。
- ◆ 少年少女合唱団の団員が、もう少し増えるようにPRしてほしい。
- ◆ アフターコロナにおける活動をどのように充実させていくのか検討していただきたい。
- ◆ コロナ禍において各種事業が計画的に実施されている。

### 3. 公民館施設の充実

- ◆ 多くの公民館施設を抱え、その維持管理はとても大変なことと思う。安心、安全な施設であるために、計画的な施設環境の整備を図ってほしい。
- ◆ 公民館を利用する市民の為に設備の維持管理と整備をしっかりとお願いします。
- ◆ 事故がないように丁寧に点検してほしい。一方で、計画的に修繕を進めていただきたい。
- ◆ 今後も施設設備の維持管理を計画的に進めていただきたい。

### 4. 公民館事業の充実

- ◆ 生涯学習講座の課題は、若年層の参加者が少ないことである。そのために、どのような取組を行っているのか知りたい。

- ◆ コロナ禍で感染対策を講じ、開設講座数が6増と受講者数が72名増加へつなげたことは評価できる。
- ◆ 若年層が参加しやすい講座の開設を検討していただきたい。
- ◆ 講座が6、受講者が72名増加している。

## 社会教育課関係（文化財係）

### 1. 指定文化財登録文化財の保存・活用

- ◆ 文化財の管理、保存、整備のためには多額の予算が必要なことと思う。未来への財産を引き継ぐためにも、早め早めの対応をお願いしたい。
- ◆ 指定文化財の解説板の修繕について加治木ロータリークラブの協力に感謝したい。
- ◆ 市報で「あいらひすとり一便」として、史跡の紹介や文化財パンフレット、ガイドブックを作成し、周知広報で市民に発信できたことは評価できる。
- ◆ 情報を発信する方法として、SNSの活用を促進していただきたい。
- ◆ 文化財審議会が定期的開催され、文化財の活用や維持管理が適切になされている。

### 2. 埋蔵文化財の保存・活用

- ◆ 長年かけて発掘調査した前田遺跡の公開については、一般市民だけでなく、児童生徒へも関心を持ってもらうような手立てを工夫してほしい。
- ◆ 発掘調査や整理作業には時間もかかり大変な作業になるが、今後も詳細な分析調査をお願いしたい。
- ◆ 前田遺跡の出土品の整理・保存・報告書の刊行・報道発表等、一連の長期にわたる業務は、高く評価したい。

### 3. 郷土芸能の保存・育成

- ◆ 郷土芸能の保存については、後継者の育成が大きな課題であると思う。後継者が途絶えつつある郷土芸能については、映像等で保存するなど検討してほしい。
- ◆ コロナ禍で感染対策を行い、太鼓踊りが開催されたことに評価したい。
- ◆ 各郷土芸能保存会に対しても今後も連携支援を継続してほしい。

- ◆ 郷土芸能の保存・伝承に努めていると思う。
- ◆ 郷土芸能を継続している個人・団体等への補助金の交付は、今後も継続していただきたい。

#### 4. 施設の充実

- ◆ 資料館の活用について、学校にも積極的な活用を促したい。特別展の実施は、とても良かったと思う。今後も、継続的に実施してほしい。
- ◆ 歴史民俗資料館・加治木郷土館などの施設について市民に利用してもらう手立て・周知を検討してほしい。
- ◆ 郷土芸能の保存・伝承に努めていると思う。
- ◆ 学校教育における資料館の利用促進の更なる周知をお願いしたい。

### 図書館事務局関係

#### 1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実

##### 図書館サービス業務の充実

- ◆ 蒲生図書館の利用しやすい環境づくりが利用者増につながっている。
- ◆ 雑誌スポンサーや広域利用について、新しい運営を工夫しているのは評価したい。それに伴う課題も見えてきているので、その対応策を考えてほしい。
- ◆ 感染対策を講じながら図書館運営とサービスが行われたことは、市民にとってもありがたく、今後も利用者第一を考え対応してもらいたい。
- ◆ 雑誌スポンサーが3社6誌増について、商工会を通じて増加したことは評価したい。
- ◆ 民間活力の導入及び広域利用の推進がよくなされている。
- ◆ コロナ禍においても年間を通じて利用者に親しまれる様々な企画運営のもと通常開催できたことは、評価したい。

##### 読書活動の充実

- ◆ 本の大好きな始良の子どもたちを育てるために、子ども読書活動推進事業や各種イベントを実施していることは評価できる。移動図書館車の運

行場所を新たに計画するなどの工夫をしているので、今後も新しい取組を期待したい。

- ◆ 学校での読み聞かせについて多くの子ども達が楽しみにしている事業なので、今後も継続してもらいたい。
- ◆ 移動図書館車についても3ヶ所運行が増加し、利用拡大につながったこと評価したい。
- ◆ 学童(夏休み利用)や福祉施設等などへ移動図書館車を運用し利用してもらいたい。
- ◆ 幼少期からの読書活動は、子どもたちの想像力を育むために大切であると思う。さらに充実させていただきたい。
- ◆ 移動図書館車の移動先が3か所増えたことは、利用の拡大につながる。今後も移動先を増やしていただきたい。

## 視聴覚ライブラリーの充実

- ◆ 視聴覚ライブラリーの利用者がある限り、周知・広報に努め、促進を継続してもらいたい。
- ◆ 視聴覚ライブラリーの利用促進に向けた更なる取組をお願いしたい。

## 2. 始良市立図書館ネットワークの充実

- ◆ ウェブサービス登録の利用者が増えていることは、市民のニーズに responding している証である。ただ、登録の煩雑さがあるので今後の検討課題である。
- ◆ ウェブサービス利用者が増えていることは、喜ばしいことである。今後もより良いサービスを提供してもらいたい。
- ◆ ウェブサービス、オサイフケータイ新規登録者数が年々増加しており、今後の利用促進につながると思う。

## 保健体育課関係

### 1. 生涯スポーツの推進

- ◆ コロナ禍の中で、様々なスポーツ大会やイベントを実施したことは評価できる。今後も、多くの市民が参加できるような各種スポーツやイベントを工夫してほしい。

- ◆ コロナ禍で感染対策を行い、各種スポーツ大会の実施やスポーツ推進委員の資質向上を図るための取組が企画実施されたことに評価できる。
- ◆ 様々な取組がなされており、充実していると思う。
- ◆ コロナ感染症対応に細心の注意を払いながら関係団体との連携のもと、各種スポーツ大会等を実施できたことは、大いに評価できる。

## 2. 競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進

- ◆ 「薩摩おいどんカップ」が開催され、県内外から多くの観客が試合を楽しんでいた。私も、何度も試合を見たが、地元の中学生や高校生のブラスバンドも盛り上げてくれており、とても好感が持てた。今後も、始良市の大きな取組として、継続してほしい。
- ◆ 薩摩おいどんカップが初開催され、2,000人を超える来場があり、市民にスポーツの素晴らしさを知ってもらう良い機会になったことをとても評価したい。
- ◆ 選手・利用者・観戦者が施設を利用する上で、困りごとがないよう今後も対応してもらいたい。
- ◆ 様々な取組がなされており、充実していると思う。
- ◆ 全国大会等出場奨励金支給は、選手にとって大きな励みとなり、今後も継続していただきたい。
- ◆ 社会体育施設の利用者が、コロナ禍以前の水準に回復している。今後も利用者増に向けた取組を期待したい。

## 3. 体力・運動能力の向上

- ◆ 学力向上と同じように、体力向上に向けても取組を進めてほしい。そのためにも、始良市の児童生徒の体力・運動能力の現状をきちんと把握し、体育授業等で補助運動を取り入れたり、運動する機会を広げたりする取組をお願いしたい。
- ◆ 「体力アップ！チャレンジかごしま」の取組では、市内の学校が参加し、県内ベスト10に入る学校や学校賞を受賞するなど、子ども達が目標をもって運動に取り組んでいる。頑張る姿に評価したい。  
そして運動大好き“かごしまっ子”の育成に努めてもらいたい。
- ◆ 各学校取り組んでいる、『体力・運動能力調査結果を踏まえた毎時の授業改善』について、お互いに情報交換できる場（授業参観・インターネット活用等）を設けてほしい。

#### 4. 健康教育の充実

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の対応に追われながらも、児童生徒の安全、安心な生活に向けて努力されたことは評価したい。今後は、インフルエンザ等も同じように、危機感を持って感染症対策に取り組んでほしい。
- ◆ 健康診断や就学時検診は、子どもの成長を見守る中で一番大事なことであり、自覚症状のない子もいると思うので、検診をしっかりと実施することで早期治療へつながると思う。  
疾病について治療を指導した後は、治療の経過報告もしっかり把握し、子ども達の体調管理に努めてもらいたい。
- ◆ コロナ感染対策も引き続きしっかり継続をお願いします。
- ◆ 場面に応じた感染症対策は、今後も引き続き行っていくことが大事であると思う。
- ◆ 学校保健法に基づいた健康診断や就学時検診とその後の対応が適切になされている。

#### 5. 安全・安心な学校づくり

- ◆ 「始良っ子見守り隊」など地域の方々の協力は本当に有り難い。学校側も、その方々への感謝とお礼の気持ちを忘れないようにしてほしい。
- ◆ 不審者情報が増えてきているとのことであるが、児童生徒へのきめ細かい指導を継続的に積み重ねてほしい。
- ◆ 児童・生徒の登下校の安全を見守る「始良っ子見守り隊」またスクールガードリーダーと通学路安全アドバイザーにより、子ども達が毎日安全に学校へ登下校できていることに感謝したい。
- ◆ 子ども達にも見守ってくださる方がいることを学校で紹介し感謝する心を育ててほしい。
- ◆ 「始良っ子見守り隊」に感謝する。
- ◆ 不審者情報への対応が増加する傾向にあると思う。どのように対応していくのか関係機関等と共通理解を図っていただきたい。
- ◆ 「始良っ子見守り隊」、「スクールガードリーダー」、「通学路安全アドバイザー」の方々との連携が適切に行われており、児童生徒の登下校の安全や学校全体の安全体制の充実が図られている。

## 6. 食育の推進

- ◆ 食育講演会が2年ぶりに開催できたことは、とても良い機会になり、健康増進課と連携し新しい取組が実施できたことにも評価できる。
- ◆ アフターコロナにおける食育の在り方を検討していただきたい。
- ◆ 食育推進事業としての3事業が適切になされている。
- ◆ 各学校等における給食の残食の状況と具体的な対応等についての研修の場を設定していただきたい。

## 7. 学校給食の充実

- ◆ 新学校給食センターの整備計画が進んでいるとのことであるが、給食運営委員会等での意見も取り入れてほしい。
- ◆ 給食費の公会計化は、学校の業務改善にも非常に有効である。過年度未納分の取り扱い等課題も多いが、スムーズな運営を期待したい。
- ◆ 安全・安心な学校給食の提供に向けて、給食運営委員会、献立検討会、アレルギー対策、徹底した衛生管理により携わる従業員の方々のおかげで、毎日おいしい給食が提供されていることに感謝し評価します。
- ◆ 給食費の未納状況があり、食材等の高騰に伴い運営も大変かと思えます。保護者へ現状をしっかりと周知し理解を図ってもらえたらと思えます。
- ◆ 公会計化に向けて、着実に準備がなされている。
- ◆ 新学校給食センターの基本計画策定業務に着手できたことは喜ばしいことである。
- ◆ 学校給食費公会計化への移行は、学校現場における業務改善として高く評価したい。

## 国体推進課関係

### 1. 国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の開催準備

#### (1) 国体開催に向けた機運醸成

広報活動、市民運動の促進

- ◆ 国体開催前年度ということで、様々な事業やイベントを実施し、国体に向けての機運が醸成されていることは素晴らしい。

- ◆ 佐賀県との交流事業を通して両県の往来や情報交換を常時とれる体制づくりができたことは評価できる。
- ◆ 広報活動においても各種イベントでPRが行われたことは評価できる。
- ◆ 大会へ向けて着々と準備がなされ、盛り上がってきていると感じる。
- ◆ 国体に向けての広報活動として、各種イベントでの広報啓発、市民運動の取組、佐賀県との交流事業など、様々な工夫を凝らした取組がなされている。

## (2) 特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」の開催準備

### 実行委員会の取組

- ◆ 国体開催に向けて、実行委員会等を中心に各種団体と着実な連携が図られている。今後も、綿密な準備計画のもと、素晴らしい運営が図られるように期待したい。
- ◆ かごしま国体が近づいている今も、コロナ感染は終息していないので、国の方針で5類になり緩和の方向ではありますが、現状を把握しながらコロナ感染対策を検討し、無事に国体が開催されることを願っています。
- ◆ 計画通りに行われている。本番に向けて、各機関との連絡・調整を丁寧に行っていただきたい。
- ◆ 実行委員会としての取組は、すべての会が予定通り実施され成果を上げている。
- ◆ 新規に企業協賛5社を得たことは、素晴らしい。

### 競技別の準備

- ◆ 始良市体育館でバスケット競技を見る機会があったが、きれいに改修され、大会を迎えるにふさわしい会場となっていた。
- ◆ 国体に向けて競技団体との連携や調整、様々な取組が行われ、とても大変な準備だと思う。本番までしっかり関係機関と連携を取って対応してもらいたい。
- ◆ 開催準備が適切に行われている。
- ◆ 競技別の準備は、競技団体との連絡調整、栃木国体開催会場視察（事業説明と全体引継ぎ事項）等、様々な取り組みがなされている。
- ◆ 施設設備では・始良・蒲生体育館の床研磨が行われた。

## 宿泊衛生、輸送交通

- ◆ 宿泊や輸送等は、その計画や予算等大変な労力が求められると思う。大会に参加された方々が満足のいく運用計画を作ってほしい。
- ◆ 宿泊衛生・輸送交通については、県及び共同企業が主体となることなので、しっかり主体側と連携をとって対応してもらいたい。
- ◆ 学校観戦、輸送交通業務は、関係部署との連携が図られている。
- ◆ 合同宿泊、輸送交通計画、弁当配達等の運用状況については、今後も県・共同企業体との連携を密にしていきたい。

### (3) 全国障害者スポーツ「燃ゆる感動かごしま国体」の開催準備

- ◆ 障害者スポーツ大会も、県と連携を図りながら、参加者が気持ちよくプレーできるように支援してほしい。
- ◆ 障害者スポーツ大会は、県主体の運営であるが、大会に参加する選手が大会に行く交通手段や食事について困っている方がいる場合、始良市を代表として出場する時には、市で対応できないか検討してほしい。
- ◆ 適切に対応できている。
- ◆ 運営主体の県や競技団体とのきめ細かな情報交換を継続していただきたい。

### (4) 競技別リハーサル大会の開催準備・競技会運営

- ◆ リハーサル大会における課題もいろいろあったようである。本番に向けての改善策を講じてほしい。
- ◆ バスケットボールのリハーサル大会も事前準備等大変だったと思うが、来場者2,000人あり、盛り上がったことはとても良かった。その中で改善面や調整が必要な部分を本番に向けて対応してもらいたい。
- ◆ リハーサルを通じて、事前に改善点を把握することができている。本番につなげていただきたい。
- ◆ リハーサル大会運営の実施本部を編成する市職員の積極的な理解と行動力は、本番に向けた素晴らしい取組である。
- ◆ 競技運営に関して、競技団体との情報交換を更に綿密にしていきたい。

## (5) デモンストレーションスポーツの開催準備

- ◆ デモンストレーション競技が、市民にとって身近なスポーツになるように啓発してほしい。
- ◆ デモンストレーション競技があることを知らない市民もいると思うので、広報・周知してもらえたらありがたいです。
- ◆ 国体初となるのでデモンストレーション開催に向けた、競技団体との事前協議が入念になされている。

## 始良市教育委員会外部評価委員

番号	氏名	経歴等	備考
1	宇都 尚美	加治木高等学校長	学校教育
2	麓 吉雄	学校評議員(元中学校長)	社会体育
3	和田 幸一郎	元志布志市教育委員会教育長	教育委員会が必要と認める者
4	百武 美津代	元始良市教育委員	社会教育
5	都井 正広	重富小学校PTA副会長	PTA連絡協議会代表者

令和5年7月10日現在

## 始良市教育委員

番号	氏名	役職等	備考
1	川畑 逸郎	教育長職務代理者	
2	岩元 真美	教育委員	
3	藤田 麻美	教育委員	
4	高橋 隆一郎	教育委員	

令和5年9月1日現在

○始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則

平成22年3月23日教育委員会規則第5号

始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則

(趣旨)

第1条 この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「法」という。）第26条の規定に基づき、教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象及び時期)

第2条 点検及び評価の対象は、法第23条各号に掲げる事務及び教育施策上の重要課題とする。

2 点検及び評価は、毎年度、前年度の前項に規定する事項について行うものとする。

(資料の整理等)

第3条 点検及び評価に資するため、事務局（法第18条に規定する事務局をいう。）は、前条第1項に規定する事項について、必要な資料を整理する。

(教育に関し学識経験を有する者の知見の活用)

第4条 法第27条第2項の規定に基づき、点検及び評価を行うに当たり教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、始良市教育委員会外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置するものとし、必要な事項は、別に定める。

(議会報告等)

第5条 始良市教育委員会は、評価委員会からの答申を踏まえ、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、始良市議会に提出するとともに、これを公表するものとする。

(庶務)

第6条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育総務課において処理する。

(委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成22年3月23日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の教育に関する事務の点検及び評価の実施に関する要綱（平成21年加治木町教育委員会要綱第1号）又は教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則（平成21年始良町教育委員会規則第1号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成30年3月30日教委規則第3号抄）

(施行期日)

1 この規則中は、第1条、第3条及び第4条の規定は公布の日から、第2条の規定は平成30年4月1日から施行する。

(始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則の一部改正に関する経過措置)

4 この規則の施行の際現に在職する教育長の在任特例期間においては、第4条の規定による改正後の始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則第1条の規定は適用せず、第4条の規定による改正前の始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則第1条の規定は、なおその効力を有する。

始良市教育委員会外部評価委員会規程

(設置)

第1条 始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則（平成22年始良市教育委員会規則第5号）第4条の規定に基づき、始良市教育委員会外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 評価委員会は、始良市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について審議し、その結果を答申するものとする。

- (1) 教育委員会の事務の点検結果の評価に関すること。
- (2) 教育委員会の委員の活動状況点検結果の評価に関すること。
- (3) その他教育委員会の点検及び評価に関し必要と認めること。

(組織)

第3条 評価委員会は、5人以内の評価委員をもって組織する。

2 評価委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育、社会教育及び社会体育に知見を有する者
- (2) 芸術文化関係に知見を有する者
- (3) P T A連絡協議会代表者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 評価委員の任期は、委嘱日から当該委嘱日の属する翌年度末までとし、補欠評価委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

(会長)

第5条 評価委員会は、会長1人を置き、評価委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、評価委員会を代表する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、評価委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席評価委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 評価委員会の庶務は、教育総務課において処理する。

(委任)

第8条 この訓令に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

附 則

この訓令は、平成22年3月23日から施行する。

附 則（平成24年6月14日教委訓令第11号）

この訓令は、告示の日から施行する。